

シラバス

令和 8 年度（2026 年度）

九州歯科技工専門学校

九州歯科技工専門学校	課程	医療専門	学科	歯科技工士科	講義・演習 実習・実技・実験	1単位 1単位	15～30時間 30～45時間	
【基礎分野】					単位数		時間数	
教育内容	科目名	授業形式	1学年 前	2学年 前	計	1学年 前	2学年 前	計
科学的思考の基盤 人間と生活	英語	講義		2	6		30	90
	造形美術概論	講義 演習	2			30		
	コミュニケーション学Ⅰ	講義	1			15		
	コミュニケーション学Ⅱ	講義		1			15	
【専門基礎分野】					単位数		時間数	
教育内容	科目名	授業形式	1学年 前	2学年 前	計	1学年 前	2学年 前	計
歯科技工と歯科医療	歯科技工学概論	講義	2		3	30		45
	関係法規	講義		1			15	
歯・口腔の構造と機能	口腔・顎顔面解剖学Ⅰ	講義	4		13	60		285
	口腔・顎顔面解剖学Ⅱ	講義		1			15	
	口腔・顎顔面解剖学総合	講義 演習		1			30	
	歯の解剖学実習Ⅰ	実習	1			60		
	歯の解剖学実習Ⅱ	実習		1			30	
	顎口腔機能学Ⅰ	講義		2			30	
	顎口腔機能学Ⅱ	講義		1			15	
	顎口腔機能学実習	実習		1			30	
歯科材料・歯科技工機器 と加工技術	顎口腔機能学総合	講義 演習		1			15	
	歯科理工学Ⅰ	講義	4		9	60		180
	歯科理工学Ⅱ	講義		2			30	
	歯科理工学総合	講義 演習		1			30	
歯科理工学実習	実験		2			60		
【専門分野】					単位数		時間数	
教育内容	科目名	授業形式	1学年 前	2学年 前	計	1学年 前	2学年 前	計
有床義歯技工学	有床義歯技工学Ⅰ	講義	3		13	60		360
	有床義歯技工学Ⅱ	講義		1			30	
	有床義歯技工学総合	講義 演習		1			30	
	有床義歯技工学実習Ⅰ	実習	2			60		
	有床義歯技工学実習Ⅱ	実習		2			60	
	有床義歯技工学実習Ⅲ	実習		2			60	
	有床義歯技工学実習Ⅳ	実習		2			60	
歯冠修復技工学	歯冠修復技工学Ⅰ	講義	3		13	60		360
	歯冠修復技工学Ⅱ	講義		1			30	
	歯冠修復技工学総合	講義 演習		1			30	
	歯冠修復技工学実習Ⅰ	実習	2			60		
	歯冠修復技工学実習Ⅱ	実習		2			60	
	歯冠修復技工学実習Ⅲ	実習		2			60	
	歯冠修復技工学実習Ⅳ	実習		2			60	
矯正歯科技工学	矯正歯科技工学	講義		1	3	30		75
	矯正歯科技工学実習	実習		1			30	
	矯正歯科技工学総合	講義 演習		1			15	
小児歯科技工学	小児歯科技工学	講義		1	3	30		75
	小児歯科技工学実習	実習		1			30	
	小児歯科技工学総合	講義 演習		1			15	
歯科技工実習	歯科技工実習Ⅰ	実習	2		13	60		480
	歯科技工実習Ⅱ	実習		2			60	
	歯科技工実習Ⅲ	実習		3			120	
	歯科技工実習Ⅳ	実習		6			240	
合 計 単 位 数					76	総時間数		1950

科 目 名	英語	担当教員	山内 詩織	実務経験	×
対象学年	2	分 野	基 礎		
開講義時期	前期	単位数	2		
曜日・時限	水 3, 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
歯科技工に必要な基礎的英語を修得する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1．英語ヒアリングを実施する。 2．英語スピーキングを実施する。 3．英語ライティングを実施する。 4．英語リーディングを実施する。 5．歯科英語を修得する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）			担当教員
1-2	ユニット1．英語ヒアリング	・英語ヒアリングを実施する。			山内 詩織
3-4	ユニット1．英語ヒアリング	・英語ヒアリングを実施する。			
5-6	ユニット2．英語スピーキング	・英語スピーキングを実施する。			
7-8	ユニット2．英語スピーキング	・英語スピーキングを実施する。			
9-10	ユニット3．英語ライティング	・英語ライティングを実施する。			
11-12	ユニット3．英語ライティング	・英語ライティングを実施する。			
13-14	ユニット4．英語リーディング	・英語リーディングを実施する。			
15-16	ユニット5．歯科英語	・歯科英語を修得する			
成績評価の方法					
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					
教科書・参考書					
歯科技工士教本・歯科英語、適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示					
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	造形美術概論	担当教員	長谷 久男	実務経験	×
対象学年	1	分 野	基 礎		
開講義時期	前期	単位数	2		
曜日・時限	木 3, 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義・演習	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
歯科技工に必要な美的感覚（色彩・形態）を養うために、デッサン、絵画、彫刻および工芸（造形美）それらに必要な基礎的事項を修得する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1．基本的な造形形態と陰影の模写を実施する。 2．歯科審美の意義を説明する。 3．歯列の形態を正確に描写する。 4．さまざまな画材による表現の方法を修得する。 5．色の三属性とマンセルシステムについて説明する。 6．水彩絵の具で対象物の色調の模倣を実施する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）			担当教員
1-2	ユニット1．基本的な造形形態と陰影の模写	・鉛筆画を作製する（写生）			長谷 久男
3-4	ユニット1．基本的な造形形態と陰影の模写	・鉛筆画を作製する（相互スケッチ等）			
5-6	ユニット1．基本的な造形形態と陰影の模写	・ダーマトグラフを使った基礎描写を実施する（屋外スケッチ）			
7-8	ユニット2．歯科審美の意義 ユニット3．歯列形態の正確な描写	・歯科審美の意義を説明する ・歯列の形態を正確に描写する。			
9-10	ユニット4．さまざまな画材による表現の方法	・さまざまな画材による表現の方法を実施する1（木炭画）			
11-12	ユニット4．さまざまな画材による表現の方法	・さまざまな画材による表現の方法を実施する2（クレヨン画）			
13-14	ユニット4．さまざまな画材による表現の方法	・さまざまな画材による表現の方法を実施する3（筆ペン画）			
15-16	ユニット4．さまざまな画材による表現の方法	・さまざまな画材による表現の方法を実施する4（水彩画）			
成績評価の方法					
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として100点を満点とし、優（80点以上）・良（70点以上80点未満）・可（60点以上70点未満）・不可（60点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の2/3以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					
教科書・参考書					
適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示					
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	コミュニケーション学Ⅰ	担当教員	堀 慎次	実務経験	○
対象学年	1	分 野	基 礎		
開講義時期	前期	単位数	1		
曜日・時限	金曜 3, 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
歯科技工に必要なコミュニケーションを修得する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1. コミュニケーションの概要を説明する。 2. 対人コミュニケーションを説明する。 3. 対人コミュニケーションを実施する。 4. 電子コミュニケーションを説明する。 5. 電子コミュニケーションを実施する。 6. 総合討論を実施する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）			担当教員
1-2	ユニット1. コミュニケーションの概要	・コミュニケーションの概要を説明する。			堀 慎次
3-4	ユニット2. 対人コミュニケーションの説明	・対人コミュニケーションを説明する。			
5-6	ユニット3. 対人コミュニケーションの実施	・対人コミュニケーションを実施する（グループディスカッション）。			
7-8	ユニット3. 対人コミュニケーションの実施	・対人コミュニケーションを実施する（グループディスカッション）。			
9-10	ユニット4. 電子コミュニケーションの説明	・電子コミュニケーションを説明する。（SNS など）。			
11-12	ユニット5. 電子コミュニケーションの実施	・電子コミュニケーションを実施する。（SNS など）。			
13-14	ユニット6. 総合討論	・総合討論を実施する。			
15-16	ユニット6. 総合討論	・総合討論を実施する（スポーツ大会他）。			
成績評価の方法					
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					
教科書・参考書					
適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示					
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	コミュニケーション学Ⅱ	担当教員	堀 慎次	実務経験	○
対象学年	2	分 野	基 礎		
開講義時期	後期	単位数	1		
曜日・時限	金曜 3, 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
歯科技工に必要なコミュニケーションを修得する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1．医療コミュニケーションの概要を説明する。 2．患者の多様な価値観を説明する。 3．言語的および非言語的コミュニケーションの方法を説明する 4．言語的および非言語的コミュニケーションを実施する 5．チームワークの方法を説明する。 6．チームワークを実施する。 7．総合討論を実施する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）			担当教員
1-2	ユニット1．医療コミュニケーションの概要	・医療コミュニケーションの概要を説明する。			堀 慎次
3-4	ユニット2．モノの多様な価値観	・モノの多様な価値観を説明する。			
5-6	ユニット3．言語的および非言語的コミュニケーションの方法	・言語的および非言語的コミュニケーションの方法を説明する			
7-8	ユニット4．言語的および非言語的コミュニケーション	言語的および非言語的コミュニケーションを実施する。			
9-10	ユニット5．チームワークの方法	・チームワークの方法を説明する（学外研修他）。			
11-12	ユニット6．チームワーク	・チームワークを実施する。			
13-14	ユニット6．チームワーク	・チームワークを実施する。			
15-16	ユニット7．総合討論	・総合討論を実施する。			
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項 特になし					
教科書・参考書 適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	歯科技工学概論	担当教員	松本 聖武 佐藤 博信	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	前期	単位数	1		
曜日・時限	月 2 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
医療分野における歯科医療の重要性、歯科医療における歯科技工の役割を理解し、専門基礎科目と専門科目における学習を的確に行うために、それらに必要な基礎的事項を修得する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1. 歯科医療と歯科技工を説明する。 2. 歯科技工士の役割を説明する。 3. 顔および口腔組織の携帯と機能を説明する。 4. 歯科疾患と周囲組織の変化を説明する。 5. 歯科臨床と歯科技工を説明する。 6. 歯科技工の管理と運営を説明する。 7. 口腔と全身の健康管理を説明する。 8. 情報のリテラシーを説明する。 9. コミュニケーションを説明する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）			担当教員
1-2	ユニット1. 歯科医療と歯科技工 ユニット2. 歯科技工士の役割	・医療と歯科医療を説明する ・歯科医療の目的を説明する ・歯科医療機関の役割を説明する ・歯科医療関係職種を説明する ・歯科技工と歯科技工学を説明する ・歯科技工の業務を説明する ・歯科技工の倫理を説明する ・歯科技工士の現状を説明する			松本 聖武
3-4	ユニット3. 顔および口腔組織の形態と機能	・顔の形態と機能を説明する ・口腔の形態を説明する ・口腔の機能を説明する			佐藤 博信
5-6	ユニット4. 歯科疾患と周囲組織の変化	・歯の異常を説明する ・歯列不正・咬合の異常を説明する ・歯および硬組織疾患を説明する ・歯髄、歯周組織の疾患を説明する ・顎関節症を説明する ・舌、口腔軟組織、顎骨および顔面の疾患を説明する ・歯の喪失に伴う周囲組織の変化を説明する ・歯科疾患の現状を説明する			
7-8	ユニット5. 歯科臨床と歯科技工	・硬組織疾患と歯科技工を説明する ・歯の欠損と歯科技工を説明する ・歯周病と歯科技工を説明する ・歯列不正と歯科技工を説明する			
9-10	ユニット5. 歯科臨床と歯科技工	・口腔外科疾患と歯科技工を説明する ・顎関節症と歯科技工を説明する ・スポーツ歯科と歯科技工を説明する ・歯科技工のデジタル化を説明する ・歯科法医学と歯科技工を説明する			松本 聖武

11-12	ユニット6. 歯科技工の管理と運営	・歯科技工の作業環境を説明する ・歯科技工業務の運営を説明する ・歯科技工における衛生管理を説明する	佐藤 博信
13-14	ユニット7. 口腔と全身の健康管理	・加齢現象を説明する ・咀嚼と健康を説明する ・歯および口腔の衛生管理を説明する ・健康政策を説明する ・在宅歯科医療を説明する ・災害時の歯科医療を説明する	松本 聖武
15-16	ユニット8. 情報リテラシー ユニット9. コミュニケーション	・ハードウェアを説明する ・ソフトウェアを説明する・コミュニケーションの概要を説明する ・接遇とマナーを説明する ・身だしなみを説明する	佐藤 博信
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として100点を満点とし、優（80点以上）・良（70点以上80点未満）・可（60点以上70点未満）・不可（60点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の2/3以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。			
履修上の注意事項 特になし			
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 歯科技工管理学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 その他適宜印刷物の配布			
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。			

科 目 名	関係法規	担当教員	藤原 弘明	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	前期	単位数	1		
曜日・時限	木 2 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
歯科医療の現状、法体制、歯科医師をはじめとした医療従事者との関係性を理解する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1．歯科技工士法を説明できる。 2．医療法、歯科医師法、歯科衛生士法等の概要を説明できる。 3．歯科医療の現状を説明できる。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）			担当教員
1-4	ユニット1．歯科技工士法	・ 歯科技工士法を説明できる。 ・ 歯科技工士法施行令を説明できる。 ・ 歯科技工士法施行規則を説明できる。			藤原 弘明
5-6	ユニット2．医療法、歯科医師法、歯科衛生士法他	・ 医療法の概要を説明できる。 ・ 歯科医師法の概要を説明できる。 ・ 歯科衛生士法の概要を説明できる。 ・ 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の概要を説明できる。			
7-8	ユニット3．歯科医療の現状	・ 歯科医療の現状や問題点などを説明できる。 ・ 世界、日本の歯科材料の安全性等についての取り組みについて説明する。			
成績評価の方法					
定期考査、受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として100点を満点とし、優（80点以上）・良（70点以上80点未満）・可（60点以上70点未満）・不可（60点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の2/3以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					
教科書・参考書					
最新歯科技工士教本 歯科技工管理学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 その他適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示					
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	口腔・顎顔面解剖学Ⅰ	担当教員	藤原 弘明	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	前期	単位数	4		
曜日・時限	木 3,4 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
歯・歯周組織の形態、構造および機能を理解する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1．歯の概説を述べる 2．永久歯の形態を述べる 3．乳歯の形態を述べる 4．歯の発生を述べる 5．歯と歯周組織の基本的構造を述べる					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）			担当教員
1-2	ユニット1．歯の概説	・歯の生物学的特性を述べる。 ・歯の外形と内形を説明できる。 ・歯の種類と名称を列挙できる ・歯の記号と歯式の表示法を説明できる。 ・歯の方向と部位の用語を説明できる。 ・歯の形態を説明できる。 ・歯の植立様式を説明できる。 ・永久歯の形態的特徴を列挙できる。 ・歯の組織の基本的構造を説明できる。 ・歯周組織の基本的構造を説明できる。			藤原 弘明
3-4	ユニット2．永久歯の形態Ⅰ（切歯・犬歯）	・歯の種類と名称を列挙できる。 ・歯の形態を説明できる。 ・永久歯の形態的特徴を列挙できる。 ・歯の数形態および色の異常について説明できる。			
5-6	ユニット2．永久歯の形態Ⅱ（小臼歯）	・歯の種類と名称を列挙できる。 ・歯の形態を説明できる。 ・永久歯の形態的特徴を列挙できる。 ・歯の数形態および色の異常について説明できる。			
7-8	ユニット2．永久歯の形態Ⅲ（大臼歯）	・歯の種類と名称を列挙できる。 ・歯の形態を説明できる。 ・永久歯の形態的特徴を列挙できる。 ・歯の数形態および色の異常について説明できる。			
9-10	ユニット2．永久歯の形態Ⅳ（まとめ）	・歯種の鑑別ができる。			
11-12	ユニット3．乳歯の形態	・歯の生物学的特性を述べる。 ・歯の外形と内形を説明できる。 ・歯の種類と名称を列挙できる。 ・の形態を説明できる。 ・歯の組織の基本的構造を説明できる。			
13-14	ユニット4．歯の発生	・歯の発生、発育および交換の過程を説明できる。 ・歯の組織の基本的構造を説明できる。			

15-16	ユニット5. 歯と歯周組織	・歯周組織の基本的構造を説明できる。 ・歯と歯周組織の加齢変化を説明できる。 ・顎口腔の加齢現象を説明できる。 ・歯の形態異常を説明できる。	
成績評価の方法 定期考査、受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として100点を満点とし、優(80点以上)・良(70点以上80点未満)・可(60点以上70点未満)・不可(60点未満、再試験を実施することがある。)による段階的評価により行う。60点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の2/3以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。			
履修上の注意事項 特になし			
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学Ⅰ / 全国歯科技工士教育協議会 編集 その他適宜印刷物の配布			
授業外学習(予習・復習)の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。			

科 目 名	口腔・顎顔面解剖学 II	担当教員	藤原 弘明	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	1		
曜日・時限	木 3、4 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標 (GIO)					
口腔、頭頸部の形態、構造および機能を理解する。					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. 頭蓋の骨を述べる。 2. 口腔周囲の筋を述べる。 3. 顎顔面の筋の形態的特徴と機能を説明できる。 4. 顎関節の構造と機能を述べる。 5. 口腔と口蓋の構造を述べる。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)			担当教員
1-2	ユニット 1. 頭蓋の骨	・頭蓋骨の構造を説明できる。 ・顎口腔の神経支配を概説できる。			藤原 弘明
3-4	ユニット 2. 口腔周囲の筋	・顎顔面の筋の形態的特徴と機能を説明できる。 ・顎口腔の神経支配を概説できる。			
5-6	ユニット 3. 顎関節の構造と機能	・顎関節の構造と機能を説明できる。			
7-8	ユニット 4. 口腔と口蓋の構造	・口腔と口蓋の構造を説明できる。 ・顎口腔の神経支配を概説できる。 ・唾液腺の役割と存在部位を説明できる。 ・舌の構造と役割を説明できる。			
成績評価の方法					
定期考査、受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優 (80 点以上)・良 (70 点以上 80 点未満)・可 (60 点以上 70 点未満)・不可 (60 点未満、再試験を実施することがある。) による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているもののみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					
教科書・参考書					
最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学 I / 全国歯科技工士教育協議会 編集					
その他適宜印刷物の配布					
授業外学習 (予習・復習) の指示					
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	口腔解剖学総合	担当教員	藤原 弘明	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専門基礎		
開講義時期	後期	単位数	1		
曜日・時限	木曜日 3, 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義・演習	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
歯・歯周組織の形態、構造および機能を理解する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1 0. 口腔解剖学の基本を述べる					
1 1. 口腔解剖学の応用を述べる					
1 2. 口腔解剖学の臨床（歯科技工の実践）を述べる					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）			担当教員
1-2	ユニット1. 口腔解剖学の基本	・口腔解剖学概要の基本を述べる			藤原 弘明
3-4	ユニット1. 口腔解剖学の基本	・口腔解剖学概要の基本を述べる			
5-6	ユニット2. 口腔解剖学の応用	・口腔解剖学概要の応用を述べる			
7-8	ユニット2. 口腔解剖学の応用	・口腔解剖学概要の応用を述べる			
9-10	ユニット2. 口腔解剖学の応用	・口腔解剖学概要の応用を述べる			
11-12	ユニット3. 口腔解剖学の臨床（歯科技工の実践）	・口腔解剖学概要の臨床実践を述べる			
13-14	ユニット3. 口腔解剖学の臨床（歯科技工の実践）	・口腔解剖学概要の臨床実践を述べる			
15-16	ユニット3. 口腔解剖学の臨床（歯科技工の実践）	・口腔解剖学概要の臨床実践を述べる			
成績評価の方法					
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					
教科書・参考書					
最新歯科技工士教本 口腔解剖学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集					
その他適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示					
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	歯の解剖学実習 I	担当教員	西俣 稔子	実務経験	○	
対象学年	1	分 野	専 門			
開講義時期	前期	単位数	3			
曜日・時限	月 1, 2 限	単位区分	必 修			
授業形態	実習	講義場所	第 1 実習室			
授業の一般目標 (GIO)						
歯科技工の臨床的意義と方法を理解するための歯型彫刻を実施する。						
授業の到達目標 (SB0s)						
1. 歯牙の概形の製作を実施する。(石膏棒を使用) 2. 大臼歯の歯型彫刻を実施する。(石膏棒を使用) 3. 前歯の歯型彫刻を実施する。(石膏棒を使用) 4. 小臼歯の歯型彫刻を実施する。(石膏棒を使用) 5. ランダムな部位の歯型彫刻を実施する。(石膏棒を使用) 6. 実習試験用石膏棒の製作を実施する。						
授業計画						
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)			担当教員	
1-2	ユニット 1. 歯牙の概形の製作	・石膏棒製作を実施する ・インスツルメントの使用法を実施する			西俣 稔子	
3-4	ユニット 1. 歯牙の概形の製作	・円柱を作製できる				
5-6	ユニット 1. 歯牙の概形の製作	・石膏棒を使用して自由作品を作製する				
7-8	ユニット 2. 大臼歯の歯型彫刻	・ # 4 6 デッサンを実施する ・ # 4 6 歯型彫刻を実施する				
9-10	ユニット 2. 大臼歯の歯型彫刻	・ # 1 6 デッサンを実施する ・ # 1 6 歯型彫刻を実施する				
11-12	ユニット 3. 前歯の歯型彫刻	・ # 1 1 デッサンを実施する ・ # 1 1 歯型彫刻を実施する				
13-14	ユニット 3. 前歯の歯型彫刻	・ # 2 1 デッサンを実施する ・ # 2 1 歯型彫刻を実施する				
15-16	ユニット 3. 前歯の歯型彫刻	・ # 1 3 デッサンを実施する ・ # 1 3 歯型彫刻を実施する				
17-18	ユニット 3. 前歯の歯型彫刻	・ # 2 3 デッサンを実施する ・ # 2 3 歯型彫刻を実施する				
19-20	ユニット 4. 小臼歯の歯型彫刻を	・ # 1 4 デッサンを実施する ・ # 1 4 歯型彫刻を実施する				
21-22	ユニット 4. 小臼歯の歯型彫刻	・ # 4 5 デッサンを実施する ・ # 4 5 歯型彫刻を実施する				
23-24	ユニット 5. ランダムな部位の歯型彫刻	・ランダムな部位の歯型彫刻を実施する				
25-26	ユニット 5. ランダムな部位の歯型彫刻	・ランダムな部位の歯型彫刻を実施する				
27-28	ユニット 5. ランダムな部位の歯型彫刻	・ランダムな部位の歯型彫刻を実施する				
29-30	ユニット 6. 実習試験用石膏棒製作	・実習試験用石膏棒を製作する				
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優 (80 点以上)・良 (70 点以上 80 点未満)・可 (60 点以上 70 点未満)・不可 (60 点未満、再試験を実施することがある。) による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。						
履修上の注意事項 特になし						
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 全部金属冠製作実習書、その他適宜印刷物の配布						

授業外学習（予習・復習）の指示
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。

科 目 名	歯の解剖学実習Ⅱ	担当教員	西俣 稔子	実務経験	○	
対象学年	2	分 野	専門基礎			
開講義時期	前期	単位数	1			
曜日・時限	水 1, 2 限	単位区分	必 修			
授業形態	実習	講義場所	第2実習室			
授業の一般目標 (GIO)						
歯科技工の臨床的意義と方法を理解するための歯型彫刻を実施する。						
授業の到達目標 (SB0s)						
1. 臼歯の歯型彫刻を実施する。(石膏棒を使用) 2. 前歯の歯型彫刻を実施する。(石膏棒を使用) 3. ランダムな部位の歯型彫刻を実施する。(石膏棒を使用)						
授業計画						
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)			担当教員	
1-2	ユニット1. 臼歯の歯型彫刻	・ # 2 4, 2 5, 2 6, 2 7 デッサンを実施する ・ # 2 4, 2 5, 2 6, 2 7 歯型彫刻を実施する			西俣 稔子	
3-4	ユニット1. 臼歯の歯型彫刻	・ # 3 4, 3 5, 3 6, 3 7 デッサンを実施する ・ # 3 4, 3 5, 3 6, 3 7 歯型彫刻を実施する				
5-6	ユニット2. 前歯の歯型彫刻	・ # 1 1, 1 2, 1 3, 4 1, 4 2, 4 3 デッサンを実施する ・ # 1 1, 1 2, 1 3, 4 1, 4 2, 4 3 歯型彫刻を実施する				
7-8	ユニット2. 前歯の歯型彫刻	・ # 2 1, 2 2, 2 3, 3 1, 3 2, 3 3 デッサンを実施する ・ # 2 1, 2 2, 2 3, 3 1, 3 2, 3 3 歯型彫刻を実施する				
9-10	ユニット3. ランダムな歯の歯型彫刻	・ ランダムな歯のデッサン実施する ・ ランダムな歯の歯型彫刻を実施する				
11-12	ユニット3. ランダムな歯の歯型彫刻	・ ランダムな歯のデッサン実施する ・ ランダムな歯の歯型彫刻を実施する				
13-14	ユニット3. ランダムな歯の歯型彫刻	・ ランダムな歯のデッサン実施する ・ ランダムな歯の歯型彫刻を実施する				
15-16	ユニット3. ランダムな歯の歯型彫刻	・ ランダムな歯のデッサン実施する ・ ランダムな歯の歯型彫刻を実施する				
成績評価の方法						
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優 (80 点以上)・良 (70 点以上 80 点未満)・可 (60 点以上 70 点未満)・不可 (60 点未満、再試験を実施することがある。) による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているもののみ受験資格を与える。						
履修上の注意事項						
特になし						
教科書・参考書						
最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 全部金属冠製作実習書、その他適宜印刷物の配布						
授業外学習 (予習・復習) の指示						
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。						

科 目 名	額口腔機能学Ⅰ	担当教員	有田 正博	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	前期	単位数	1		
曜日・時限	月 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
顎口腔の主要な機能である咀嚼、嚥下、発音に関する基礎的事項を理解するとともに、顎口腔機能障害に関連する歯科技工に関連する必要な基礎的事項を修得する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1．顎口腔の形態を説明する。 2．顎口腔の機能を説明する。 3．下顎位を説明する。 4．下顎運動を説明する。 5．歯の接触様式を説明する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット 1．顎口腔系の形態	・歯と歯列を説明する ・顎口腔系を構成する骨を説明する ・顎口腔系を構成する筋を説明する ・顎関節を説明する ・その他の軟組織を説明する ・顎口腔系の神経支配を説明する		有田 正博	
3-4	ユニット 2．顎口腔系の機能	・顎口腔系とその機能を説明する ・顎口腔系の機能と形態の維持を説明する			
5-6	ユニット 2．顎口腔系の機能	・下顎運動の分析に関する基準点・基準面を説明する ・咬合に関する基準面を説明する			
7-8	ユニット 3．下顎位	・下顎位を説明する			
9-10	ユニット 4．下顎運動	・下顎運動の種類を説明する ・下顎の基本運動を説明する ・下顎の機能運動を説明する			
11-12	ユニット 5．歯の接触様式	・歯の形態と機能を説明する ・咬頭嵌合位における咬合接触を説明するする			
13-14	ユニット 5．歯の接触様式	・偏心位における咬合接触（犬歯誘導、グループファンクション、フルバランス他）を説明する			
15-16	ユニット 5．歯の接触様式	・咬合干渉（咬頭嵌合位で、偏心咬合位で）を説明する			
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項 特になし					
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 額口腔機能学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 その他適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	顎口腔機能学Ⅱ	担当教員	有田 正博	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	1		
曜日・時限	月 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
顎口腔の主要な機能である咀嚼、嚥下、発音に関する基礎的事項を理解するとともに、顎口腔機能障害に関連する歯科技工に関連する必要な基礎的事項を修得する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1．咬合器を説明する。 2．顎機能検査と口腔内装置を説明する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット 1．咬合器	・咬合器の使用目的を説明する ・咬合器の構成と分類を説明する		有田 正博	
3-4	ユニット 1．咬合器	・フェイスボートランスファーを説明する ・咬合採得を説明する ・咬合器の使用手順を説明する			
5-6	ユニット 2．顎口腔機能検査と口腔内装置	・顎口腔機能検査 1（咬合接触）を説明する ・顎口腔機能検査 2（咬合接触圧）を説明する			
7-8	ユニット 2．顎口腔機能検査と口腔内装置	・口腔内装置 1（顎関節症、睡眠時無呼吸症）を説明する ・口腔内装置 2（スポーツマウスガード他）を説明する			
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項 特になし					
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 顎口腔機能学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 その他適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	顎口腔機能学実習	担当教員	西俣 稔子	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	前期	単位数	1		
曜日・時限	金 3,4 限	単位区分	必 修		
授業形態	実習	講義場所	第2実習室		
授業の一般目標（GIO）					
顎口腔の主要な機能である咀嚼、嚥下、発音に関する基礎的事項を理解するとともに、顎口腔機能障害に関連する歯科技工に関連する必要な基礎的事項を習得する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1. 半調節咬合器の調整を習得する。 2. 口腔内装置（スタビリゼーションスプリント）作製法を習得する。 3. 口腔内装置（スポーツマウスガード）作製法を習得する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット1. 咬合器の調整	・フェイスポートランスファーを実施する ・半調節咬合器に模型をマウントする		西俣 稔子	
3-4	ユニット1. 咬合器の調整	・半調節咬合器に調整を実施する			
5-6	ユニット2. 口腔内装置（スタビリゼーションスプリント）	・平均値咬合器への模型の付着を実施する			
7-8	ユニット2. 口腔内装置（スタビリゼーションスプリント）	・スタビリゼーションスプリントワックスパターンを作製を実施する			
9-10	ユニット2. 口腔内装置（スタビリゼーションスプリント）	・スタビリゼーションスプリントを重合を実施する ・スタビリゼーションスプリントを模型上で調整を実施する			
11-12	ユニット3. 口腔内装置（スポーツマウスガード）	・平均値咬合器への模型の付着を実施する			
13-14	ユニット3. 口腔内装置（スポーツマウスガード）	・スポーツマウスガード作製を実施する			
15-16	ユニット3. 口腔内装置（スポーツマウスガード）	・スポーツマウスガード作製を実施する			
成績評価の方法					
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として100点を満点とし、優（80点以上）・良（70点以上80点未満）・可（60点以上70点未満）・不可（60点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の2/3以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					
教科書・参考書					
最新歯科技工士教本 顎口腔機能学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 全部金属冠製作実習書、その他適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示					
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	顎口腔機能学総合	担当教員	有田 正博	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	1		
曜日・時限	月 3、4 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義・演習	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
顎口腔の主要な機能である咀嚼、嚥下、発音に関する基礎的事項を理解するとともに、顎口腔機能障害に関連する歯科技工に関連する必要な基礎的事項を修得する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1．顎口腔系の形態と機能の基本を説明する。 2．顎口腔系の形態と機能の応用を説明する。 3．顎口腔系の形態と機能の臨床（歯科技工の実践）を説明する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット1．顎口腔系の形態と機能の基本	・顎口腔の機能と形態の基本を説明する ・下顎位と下顎運動および咬合接触と咬合器の基本を説明する ・顎機能検査と口腔内装置の基本を説明する		有田 正博	
3-4	ユニット2．顎口腔系の形態と機能の応用	・顎口腔の機能と形態の応用を説明する ・下顎位と下顎運動および咬合接触と咬合器の応用を説明する ・顎機能検査と口腔内装置の応用を説明する			
5-6	ユニット3．顎口腔系の形態と機能の臨床（歯科技工の実践）	・顎口腔の機能と形態の臨床を説明する ・下顎位と下顎運動および咬合接触と咬合器の臨床を説明する ・顎機能検査と口腔内装置の臨床を説明する			
7-8	ユニット3．顎口腔系の形態と機能の臨床（歯科技工の実践）	・顎口腔の機能と形態の臨床を説明する ・下顎位と下顎運動および咬合接触と咬合器の臨床を説明する ・顎機能検査と口腔内装置の臨床を説明する			
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているもののみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項 特になし					
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 顎口腔機能学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 その他適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	歯科理工学Ⅰ	担当教員	清水 博史	実務経験	○			
対象学年	1	分 野	専 門					
開講義時期	前期	単位数	4					
曜日・時限	木 1,2 限	単位区分	必 修					
授業形態	講義	講義場所	第一普通教室					
授業の一般目標（GIO）								
歯科医療に欠かせない歯科材料および機械・器具に関する理論を理解する。								
授業の到達目標（SB0s）								
1. 歯科技工と歯科理工学を説明する。 2. 歯科材料の性質を説明する。 3. 印象と模型製作を説明する。 4. 原型模型を説明する。 5. レジン成型を説明する。 6. セラミック成型を説明する。 7. 金属成型を説明する。								
授業計画								
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）	担当教員					
1-2	ユニット1. 歯科技工と歯科理工学の概要	・歯科理工学の意義と目的を説明する ・歯科材料の果たす役割を説明する ・使用装置の制作過程を説明する ・歯科技工の安全性と環境を説明する ・生物学的要件を説明する	清水 博史					
3-4	ユニット2. 歯科材料の性質	・物質の構造を説明する ・機械的性質を説明する						
5-6	ユニット2. 歯科材料の性質	・印象材を説明する ・模型材を説明する						
7-8	ユニット3. 印象と模型製作	・人工歯の選択と排列を説明する ・歯肉形成を説明する ・ろう義歯の試適を説明する						
9-10	ユニット4. 原型材料	・原型材料を説明する						
11-12	ユニット5. レジン成型	・義歯床用レジンを説明する ・義歯床関連材料を説明する						
13-14	ユニット5. レジン成型	・歯冠用硬質レジンを説明する						
15-16	ユニット5. レジン成型	・CAD/CAM コンポジットレジンを説明する ・その他のレジン						
17-18	ユニット6. セラミック成型	・歯科用セラミックを説明する ・長石系陶材を説明する						
19-20	ユニット6. セラミック成型	・金属焼付用陶材を説明する ・加熱加圧型セラミックを説明する						
21-22	ユニット6. セラミック成型	・ジルコニアを説明する ・その他のセラミック材料を説明する						
23-24	ユニット7. 金属成型形	・歯科用合金を説明する ・金合金を説明する ・銀合金を説明する						
25-26	ユニット7. 金属成型形	・コバルトクロム合金を説明する ・チタンおよびチタン合金を説明する ・ステンレス鋼を説明する						
27-28	ユニット7. 金属成型形	・鋳造を説明する ・金属加工を説明する						
29-30	ユニット7. 金属成型形	・金属の接合を説明する ・合金の熱処理を説明する						
成績評価の方法								
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席し								

ているものにのみ受験資格を与える。
履修上の注意事項 特になし
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 歯科理工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 その他適宜印刷物の配布
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。

科 目 名	歯科理工学Ⅱ	担当教員	清水 博史	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	2		
曜日・時限	木 1,2 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
歯科医療に欠かせない歯科材料および機械・器具に関する理論を理解する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1．その他の歯科材料を説明する。 2．補綴装置と修復物の仕上げを説明する。 3．新しい加工技術を説明する 4．補綴装置と修復物の安定性を説明する					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット 1．その他の歯科材料	・合着材と接着材を説明する ・成形修復材を説明する ・インプラント材料を説明する		清水 博史	
3-4	ユニット 2．補綴装置と修復物の仕上げ	・補綴装置と修復物の仕上げの意義と目的を説明する ・成形体の仕上げを説明する			
5-6	ユニット 2．補綴装置と修復物の仕上げ	・機械研磨を説明する ・化学研磨を説明する			
7-8	ユニット 2．補綴装置と修復物の仕上げ	・圧延による表面仕上げを説明する ・材料添加による表面仕上げを説明する ・研磨効率を説明する			
9-10	ユニット 2．補綴装置と修復物の仕上げ	・切削、研削、研磨に用いられる器械器具を説明する ・各種補綴装置と修復物の研磨方法を説明する			
11-12	ユニット 3．新しい加工技術	・CAD を説明する ・CAM を説明する			
13-14	ユニット 4．補綴装置と修復物の安定性	・レジンの安定性を説明する ・セラミックの安定性を説明する			
15-16	ユニット 4．補綴装置と修復物の安定性	・金属の安定性を説明する			
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項 特になし					
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 歯科理工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 その他適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	歯科理工学総合	担当教員	西俣 稔子	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	1		
曜日・時限	木限 1, 2	単位区分	必 修		
授業形態	講義・演習	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
歯科医療に欠かせない歯科材料および機械・器具に関する理論を理解する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1. 歯科理工学の基本を述べる 2. 歯科理工学の応用を述べる 3. 歯科理工学の臨床（歯科技工の実践）を述べる					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット 1. 歯科理工学の基本	・ 歯科理工の概要の基本を述べる ・ 歯科材料基本を述べる		西俣 稔子	
3-4	ユニット 1. 歯科理工学の基本	・ 歯科理工の概要の基本を述べる ・ 歯科材料の基本を述べる			
5-6	ユニット 2. 歯科理工学の応用	・ 歯科理工の概要の応用を述べる ・ 歯科材料の応用を述べる			
7-8	ユニット 2. 歯科理工学の応用	・ 歯科理工の概要の応用を述べる ・ 歯科材料の応用を述べる			
9-10	ユニット 2. 歯科理工学の応用	・ 歯科理工の概要の応用を述べる ・ 歯科材料の応用を述べる			
11-12	ユニット 3. 歯科理工学の臨床（歯科技工の実践）	・ 歯科理工の概要の臨床実践を述べる ・ 歯科材料の臨床実践を述べる			
13-14	ユニット 3. 歯科理工学の臨床（歯科技工の実践）	・ 歯科理工の概要の臨床実践を述べる ・ 歯科材料の臨床実践を述べる			
15-16	ユニット 3. 歯科理工学の臨床（歯科技工の実践）	・ 歯科理工の概要の臨床実践を述べる ・ 歯科材料の臨床実践を述べる			
成績評価の方法					
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					
教科書・参考書					
最新歯科技工士教本 歯科理工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集					
その他適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示					
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	歯科理工学実習	担当教員	山口 文明	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	3		
曜日・時限	金 3, 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	実習	講義場所	第 2 実習室		
授業の一般目標 (GIO)					
歯科材料の所用性質を理解するための材料特性に関する実験を実施する。また、それぞれの実験結果をプレゼンテーションする					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. 石膏に関する実験を実施する。 2. 金属鑄造に関する実験を実施する。 3. レジン重合に関する実験を実施する。 4. 自由実験を実施する。 5. 実験結果のプレゼンテーションを実施する					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)	担当教員		
1-2	ユニット 1. 石膏に関する実験	・石膏の膨張の実験を実施する	山口 文明		
3-4	ユニット 1. 石膏に関する実験	・石膏の表面性状の実験を実施する			
5-6	ユニット 1. 石膏に関する実験 作	・石膏の表面性状の実験を実施する			
7-8	ユニット 2. 金属鑄造に関する 実験	・埋没材の膨張の実験を実施する			
9-10	ユニット 2. 金属鑄造に関する 実験	・金属の収縮の実験を実施する			
11-12	ユニット 2. 金属鑄造に関する 実験	・金属の収縮の実験を実施する			
13-14	ユニット 3. レジン重合に関す る実験	・レジンの収縮の実験を実施する			
15-16	ユニット 3. レジン重合に関す る実験	・レジンの収縮の実験を実施す			
17-18	ユニット 3. レジン重合に関す る実験	・レジンの収縮の実験を実施す			
19-20	ユニット 4. 自由実験	・自由実験を実施する			
21-22	ユニット 4. 自由実験	・自由実験を実施する			
23-24	ユニット 4. 自由実験	・自由実験を実施する			
25-26	ユニット 5. 実験結果のプレゼ ンテーション	・プレゼンテーションファイルの製作を実 施する (パワーポイントの使用法)			
27-28	ユニット 5. 実験結果のプレゼ ンテーション	・プレゼンテーションファイルの製作を実 施する			
29-30	ユニット 6. 実験結果のプレゼ ンテーション	・実験結果のプレゼンテーションを実施す る			
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優 (80 点以上)・良 (70 点以上 80 点未満)・可 (60 点以上 70 点未満)・不可 (60 点未満、再試験を実施することがある。) による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているもののみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項 特になし					
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 歯科理工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 全部金属冠製作実習書、その他適宜印刷物の配布					
授業外学習 (予習・復習) の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	歯科理工学学総合	担当教員	西俣 稔子	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	1		
曜日・時限	木限 1, 2	単位区分	必 修		
授業形態	講義・演習	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
歯科医療に欠かせない歯科材料および機械・器具に関する理論を理解する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1. 歯科理工学の基本を述べる 2. 歯科理工学の応用を述べる 3. 歯科理工学の臨床（歯科技工の実践）を述べる					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット 1. 歯科理工学の基本	・ 歯科理工の概要の基本を述べる ・ 歯科材料基本を述べる		西俣 稔子	
3-4	ユニット 1. 歯科理工学の基本	・ 歯科理工の概要の基本を述べる ・ 歯科材料の基本を述べる			
5-6	ユニット 2. 歯科理工学の応用	・ 歯科理工の概要の応用を述べる ・ 歯科材料の応用を述べる			
7-8	ユニット 2. 歯科理工学の応用	・ 歯科理工の概要の応用を述べる ・ 歯科材料の応用を述べる			
9-10	ユニット 2. 歯科理工学の応用	・ 歯科理工の概要の応用を述べる ・ 歯科材料の応用を述べる			
11-12	ユニット 3. 歯科理工学の臨床（歯科技工の実践）	・ 歯科理工の概要の臨床実践を述べる ・ 歯科材料の臨床実践を述べる			
13-14	ユニット 3. 歯科理工学の臨床（歯科技工の実践）	・ 歯科理工の概要の臨床実践を述べる ・ 歯科材料の臨床実践を述べる			
15-16	ユニット 3. 歯科理工学の臨床（歯科技工の実践）	・ 歯科理工の概要の臨床実践を述べる ・ 歯科材料の臨床実践を述べる			
成績評価の方法					
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					
教科書・参考書					
最新歯科技工士教本 歯科理工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集					
その他適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示					
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	有床義歯技工学Ⅰ	担当教員	八木 まゆみ	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	前期	単位数	3		
曜日・時限	金 1,2 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
全部床義歯、部分床義歯補綴装置の製作法を通じて、歯質欠損に対する補綴装置の臨床的意義と方法を理解する。さらに、適切な歯科材料の選択基準ならびに取扱い方法を理解する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1. 有床義歯技工学の概要を説明する。 2. 有床義歯の具備条件を説明する。 3. 全部床義歯の特性（種類等）を説明する。 4. 全部床義歯の作製順序を説明する。 5. 全部床義歯の技工作業を説明する。 6. 部分床義歯の特性（種類等）を説明する。 7. 部分床義歯の作製手順を説明する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット1. 有床義歯技工学の概要	・有床義歯技工学の意義と目的を説明する ・有床義歯の種類を説明する		八木 まゆみ	
3-4	ユニット2. 有床義歯の具備条件	・形態学的要件を説明する ・機能的要件を説明する ・審美的要件を説明する ・生物学的要件を説明する			
5-6	ユニット3. 全部床義歯の特性（種類等）	・全部床義歯の構成要素を説明する ・全部床義歯の種類を説明する ・維持、安定および支持を説明する			
7-8	ユニット4. 全部床義歯の作製順序	・歯科診療所と歯科技工所における作業の関連を説明する			
9-10	ユニット5. 全部床義歯の印象に伴う技工作業	・無歯顎の印象とトレーを説明する ・無歯顎の作業模型を説明する			
11-12	ユニット6. 全部床義歯の咬合採得に伴う技工作業	・咬合床作製を説明する ・咬合器装着を説明する ・咬合器の調整を説明する ・ゴシックアーチの描記装置を説明する			
13-14	ユニット7. 全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成に伴う技工作業	・人工歯の選択と排列を説明する ・歯肉形成を説明する ・ろう義歯の試適を説明する			
15-16	ユニット8. 全部床義歯の埋没と重合に伴う技工作業	・埋没を説明する ・流ろうを説明する ・重合を説明する			
17-18	ユニット9. 全部床義歯の咬合器再装着、削合および研磨に伴う技工作業	・咬合器再装着を説明する ・人工歯の削合を説明する ・研磨を説明する			
19-20	ユニット10. 部分床義歯の特性	・部分床義歯の構成要素を説明する ・残存歯、欠損の分布状態による分類を説明する ・咬合圧の支持様式による分類を説明する ・義歯の目的別による分類を説明する			
21-22	ユニット11. 部分床義歯の製作順序	・歯科診療所歯科技工所における作業の関連を説明する			
23-24	ユニット12. 部分床義歯の特性	・支台装置を説明する ・連結装置を説明する ・義歯床を説明する ・人工歯を説明する			

25-26	ユニット１３．部分床義歯の印象採得に伴う技工作業	・印象採得に伴う技工作業を説明する ・作業模型を説明する ・オルタードキャスト法を説明する	
27-28	ユニット１４．部分床義歯の咬合採得に伴う技工作業	・咬合採得に伴う技工作業を説明する ・咬合器装着を説明する	
29-30	ユニット１５．クラスプの製作 ユニット１６．バーの製作	・支台歯の前処置を説明する ・サベヤーの構造と使用方法を説明する ・鋳造鉤を説明する ・線鉤を説明する ・鋳造バーの製作を説明する ・屈曲バーの製作を説明する	
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。			
履修上の注意事項 特になし			
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 有床義歯技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 その他適宜印刷物の配布			
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。			

科 目 名	有床義歯技工学Ⅱ	担当教員	八木 まゆみ	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	1		
曜日・時限	金 1, 2 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標 (GIO)					
全部床義歯、部分床義歯補綴装置の製作法を通じて、歯質欠損に対する補綴装置の臨床的意義と方法を理解する。 さらに、適切な歯科材料の選択基準ならびに取扱い方法を理解する。					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. 部分床義歯の作製手順を説明する。 2. 部分床歯の技工作業を説明する。 3. 有床義歯の関連事項を説明する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)		担当教員	
1-2	ユニット16. 部分床義歯の人工歯排列、削合歯肉形成	・人工歯排列を説明する ・削合、歯肉形成を説明する ・ろう義歯の試適を説明する		八木 まゆみ	
3-4	ユニット17. 部分床義歯の埋没重合	・加熱重合法を説明する ・流し込みレジン重合法を説明する ・屈曲バーの製作を説明する			
5-6	ユニット18. 部分床義歯の咬合調整と研磨	・咬合調整を説明する ・研磨を説明する			
7-8	ユニット19. 有床義歯の修理	・破折・破損の原因とメカニズムを説明する ・義歯床、人工歯、次第装置の修理を説明する ・人工歯の追加を説明する			
9-10	ユニット20. リベースおよびリライン	・リベースを説明する ・リラインを説明する			
11-12	ユニット21. オーバーデンチャー	・根面被覆を説明する ・インプラント被覆を説明する			
13-14	ユニット22. 金属床義歯	・金属床義歯の利点と欠点を説明する ・金属床義歯の種類を説明する ・金属床義歯のフレームワークを説明する ・金属床義歯を説明する			
15-16	ユニット23. その他の有床義歯	・ノンメタルクラスプデンチャーを説明する ・CAD/CAM システムによる義歯を説明する			
成績評価の方法					
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として100点を満点とし、優(80点以上)・良(70点以上80点未満)・可(60点以上70点未満)・不可(60点未満、再試験を実施することがある。)による段階的評価により行う。60点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の2/3以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					
教科書・参考書					
最新歯科技工士教本 有床義歯技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集					
その他適宜印刷物の配布					
授業外学習(予習・復習)の指示					
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					
オフィスアワー					
日時: 当該授業終了後～15分程度(事前にアポイントメントを取ること)					
場所: アポイント時の指示による					

科 目 名	有床義歯技工学総合	担当教員	八木 まゆみ	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	1		
曜日・時限	金 1,2 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義・演習	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
有床義歯補綴装置の製作法を通じて、歯牙欠損に対する有床義歯補綴の臨床的意義と方法を理解する。さらに、適切な歯科材料の選択基準ならびに取扱い方法を理解する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1．有床義歯の基本を述べる 2．有床義歯の応用を述べる 3．有床義歯の臨床（歯科技工の実践）を述べる					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット1．有床義歯の基本	・有床義歯技工の概要1（欠損分類）、概要2（種類と特徴）、概要3（維持・安定。支持）概要4（構成要素）、概要5（具備条件）、概要6（印象体保管他）の基本を述べる		八木 まゆみ	
3-4	ユニット1．有床義歯の基本	・全部床義歯の製作法の基本を述べる ・部分床義歯の製作法の基本を述べる ・その他義歯の製作法の基本を述べる			
5-6	ユニット2．有床義歯の応用	・有床義歯技工の概要1（欠損分類）、概要2（種類と特徴）、概要3（維持・安定。支持）概要4（構成要素）、概要5（具備条件）、概要6（印象体保管他）の応用を述べる			
7-8	ユニット2．有床義歯の応用	・全部床義歯の製作法の応用を述べる			
9-10	ユニット2．有床義歯の応用	・部分床義歯の製作法の応用を述べる ・その他義歯の製作法の応用を述べる			
11-12	ユニット3．有床義歯の臨床（歯科技工の実践）	・有床義歯技工の概要の臨床実践を述べる ・歯冠修復・ブリッジの製作法1（全部金属冠等）の臨床実践を述べる			
13-14	ユニット3．有床義歯の臨床（歯科技工の実践）	・全部床義歯の製作法の臨床実践を述べる			
15-16	ユニット3．有床義歯の臨床（歯科技工の実践）	・部分床義歯の製作法の臨床実践を述べる ・その他義歯の製作法の臨床実践を述べる			
成績評価の方法					
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として100点を満点とし、優（80点以上）・良（70点以上80点未満）・可（60点以上70点未満）・不可（60点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の2/3以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					
教科書・参考書					
最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集					
その他適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示					
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	有床義歯技工学実習Ⅰ	担当教員	山口 文明	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	前期	単位数	3		
曜日・時限	火 1,2 限	単位区分	必 修		
授業形態	実習	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標 (GIO)					
全部床義歯の製作法を通じて、歯牙欠損に対する義歯修復の臨床的意義と方法を実施する。さらに、適切な歯科材料の選択基準ならびに取扱い方法を実施する。					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. 全部床義歯の製作を実施する。(ニッシン模型を使用)					
2. 全部床義歯の実習試験用模型製作を作製し、人工歯排列を実施する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)		担当教員	
1-2	ユニット1. 作業模型 (上下無歯顎模型)	・印象体への石膏注入を実施する ・トリマーを使用して作業模型のトリミングを実施する		山口 文明	
3-4	ユニット2. 個人トレー (上下無歯顎模型)	・外形線の記入ができる ・スパーサーを設置できる			
5-6	ユニット2. 個人トレー (上下無歯顎模型)	・トレー (無歯顎用) を製作する ・ハンドル・フィンガーレストを付与できる			
7-8	ユニット3. 咬合床 (上下無歯顎模型)	・模型のブロックアウトを実施する ・基礎床製作する			
9-10	ユニット3. 咬合床 (上下無歯顎模型)	・基準線を記入する ・咬合床製作する			
11-12	ユニット4. 咬合器付着 (上下無歯顎模型)	・咬合器付着を実施する			
13-14	ユニット5. 排列用ロウ堤 (上下無歯顎模型)	・排列用ロウ堤の製作する			
15-16	ユニット6. 人工歯排列 (上下無歯顎模型)	・人工歯排列を実施する (上顎前歯) ・人工歯排列を実施する (下顎前歯)			
17-18	ユニット6. 人工歯排列 (上下無歯顎模型)	・人工歯排列を実施する (下顎臼歯) ・人工歯排列を実施する (上顎臼歯)			
19-20	ユニット7. 歯肉形成 (上下無歯顎模型)	・歯肉形成を実施する (下顎) ・歯肉形成を実施する (上顎)			
21-22	ユニット8. 埋没・重合・研磨 (上下無歯顎模型)	・フラスコ埋没を実施する ・加熱重合を実施する			
23-24	ユニット8. 埋没・重合・研磨 (上下無歯顎模型)	・掘り出しを実施する ・リマウントを実施する			
25-26	ユニット8. 埋没・重合・研磨 (上下無歯顎模型)	・研磨 (荒、中、仕上げ) を実施する			
27-28	ユニット9. 作業模型製作と人工歯排列 (実習試験用)	・実習試験用模型とロウ堤 (2 組) を製作する			
29-30	ユニット9. 作業模型製作と人工歯排列 (実習試験用)	・実習試験用模型 (1 組) を使用して、人工歯排列を実施する (トライアル)			
成績評価の方法					
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優 (80 点以上)・良 (70 点以上 80 点未満)・可 (60 点以上 70 点未満)・不可 (60 点未満、再試験を実施することがある。) による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					
教科書・参考書					
最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集					
全部金属冠製作実習書、その他適宜印刷物の配布					

授業外学習（予習・復習）の指示
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。

科 目 名	有床義歯技工学実習Ⅱ	担当教員	山口 文明	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	3		
曜日・時限	火 1,2 限	単位区分	必 修		
授業形態	実習	講義場所	第一実習室		
授業の一般目標 (GIO)					
部分床義歯の製作法を通じて、歯牙欠損に対する義歯修復の臨床的意義と方法を実施する。さらに、適切な歯科材料の選択基準ならびに取扱い方法を実施する。					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. 部分床義歯の製作を実施する。(ニッシン模型、上顎# 1 5 1 6 1 7 番# 2 4 2 5 5 2 6 欠損を使用) 2. 部分床義歯の製作を実施する。(ニッシン模型、下顎# 3 5 3 6 3 7 番# 4 4 4 5 4 6 4 7 欠損を使用) 3. 部分床義歯の実習試験用模型製作を作製し、クラスプパターン製作を実施する (トライアル)。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)		担当教員	
1-2	ユニット1. 作業模型 (上下部分無歯顎模型)	・印象体への石膏注入を実施する ・作業模型を製作する		山口 文明	
3-4	ユニット2. 個人トレー (上下部分無歯顎模型)	・外形線の記入ができる ・スペーサーを設置できる ・個人トレーを製作する			
5-6	ユニット3. 咬合床と咬合器付着 (上下部分無歯顎模型)	・咬合床を製作する			
7-8	ユニット3. 咬合床と咬合器付着 (上下部分無歯顎模型)	・咬合器付着を実施する			
9-10	ユニット4. サベイング、設計、ブロックアウト (上下部分無歯顎模型)	・サベイングを実施する ・設計を記載する ・ブロックアウトを実施する			
11-12	ユニット5. バー、クラスプ (上下部分無歯顎模型)	・バーのパターンを製作する (パターンレジンを使用)			
13-14	ユニット5. バー、クラスプ (上下部分無歯顎模型)	・クラスプのパターンを製作する (パターンレジンを使用)			
15-16	ユニット5. バー、クラスプ (上下部分無歯顎模型)	・レジンパターンの埋没を実施する			
17-18	ユニット5. バー、クラスプ (上下部分無歯顎模型)	・バー、クラスプの鋳造を実施する ・バー、クラスプの研磨を実施する			
19-20	ユニット6. 人工歯排列と歯肉形成 (上下部分無歯顎模型)	・人工歯排列を実施する (上下顎) ・歯肉形成を実施する (上下顎)			
21-22	ユニット7. 埋没・重合・研磨 (上下部分無歯顎模型)	・シリコン埋没を実施する ・流し込みレジン重合を実施する			
23-24	ユニット7. 埋没・重合・研磨 (上下部分無歯顎模型)	・掘り出しを実施する ・リマウントを実施する			
25-26	ユニット7. 埋没・重合・研磨 (上下部分無歯顎模型)	・研磨 (荒、中、仕上げ) を実施する			
27-28	ユニット8. 作業模型製作 (実習試験用)	・実習試験用模型を製作する			
29-30	ユニット9. 作業模型製作とクラスプパターン製作 (実習試験用)	・実習試験用模型を使用して、クラスプパターン製作を実施する (トライアル)			
成績評価の方法					
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優 (80 点以上)・良 (70 点以上 80 点未満)・可 (60 点以上 70 点未満)・不可 (60 点未満、再試験を実施することがある。) による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					

教科書・参考書

最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集
全部金属冠製作実習書、その他適宜印刷物の配布

授業外学習（予習・復習）の指示

教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。

科 目 名	有床義歯技工学実習Ⅲ	担当教員	野崎 修三	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	前期	単位数	3		
曜日・時限	金曜 1, 2 限	単位区分	必 修		
授業形態	実習	講義場所	第2実習室		
授業の一般目標（GIO）					
全部床義歯の製作法を通じて、歯牙欠損に対する義歯修復の臨床的意義と方法を実施する。さらに、適切な歯科材料の選択基準ならびに取扱い方法を実施する。					
授業の到達目標（SB0s）					
4. 金属床（全部床義歯）の製作を実施する。（ニッシン模型を使用）					
5. 全部床義歯の実習試験用模型製作を作製し、人工歯排列を実施する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット1. 作業模型（上下無歯顎模型）	・印象体への石膏注入を実施する ・トリマーを使用して作業模型のトリミングを実施する		野崎 修三	
3-4	ユニット2. 咬合床（上下無歯顎模型）	・模型のブロックアウトを実施する ・基礎床製作する			
5-6	ユニット3. 咬合器付着（上下無歯顎模型）	・咬合器付着を実施する			
7-8	ユニット4. 金属床（上顎無歯顎模型）	・模型のブロックアウトを実施する ・副模型を製作する			
9-10	ユニット4. 金属床（上顎無歯顎模型）	・ワックスアップを実施する			
11-12	ユニット4. 金属床（上顎無歯顎模型）	・鋳造を実施する			
13-14	ユニット4. 金属床（上顎無歯顎模型）	・研磨を実施する			
15-16	ユニット5. 人工歯排列（上下無歯顎模型）	・人工歯排列を実施する（上顎） ・人工歯排列を実施する（下顎）			
17-18	ユニット6. 歯肉形成（上下無歯顎模型）	・歯肉形成を実施する（下顎） ・歯肉形成を実施する（上顎）			
19-20	ユニット7. 埋没・重合・研磨（上下無歯顎模型）	・フラスク埋没を実施する ・加熱重合を実施する			
21-22	ユニット7. 埋没・重合・研磨（上下無歯顎模型）	・掘り出しを実施する ・リマウントを実施する			
23-24	ユニット7. 埋没・重合・研磨（上下無歯顎模型）	・研磨（荒、中、仕上げ）を実施する			
25-26	ユニット8. 作業模型製作と人工歯排列（実習試験用）	・実習試験用模型とロウ堤（3組）を製作する			
27-28	ユニット8. 作業模型製作と人工歯排列（実習試験用）	・実習試験用模型（1組）を使用して、人工歯排列を実施する（トライアル）			
29-30	ユニット8. 作業模型製作と人工歯排列（実習試験用）	・実習試験用模型（1組）を使用して、人工歯排列を実施する（トライアル）			
成績評価の方法					
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として100点を満点とし、優（80点以上）・良（70点以上80点未満）・可（60点以上70点未満）・不可（60点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の2/3以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					
教科書・参考書					
最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集					
全部金属冠製作実習書、その他適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示					
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	有床義歯技工学実習Ⅳ	担当教員	野崎 修三	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	3		
曜日・時限	金曜 1, 2 限	単位区分	必 修		
授業形態	実習	講義場所	第 2 実習室		
授業の一般目標 (GIO)					
全部床義歯および部分床義歯の製作法を通じて、歯牙欠損に対する義歯修復の臨床的意義と方法を実施する。さらに、適切な歯科材料の選択基準ならびに取扱い方法を実施する。					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. ノンクラスプデンチャー（両側遊離端部分床義歯）の製作を実施する。（ニッシン模型を使用） 2. 即時義歯の製作を実施する。（臨床模型を使用） 3. 部分床義歯の実習試験用模型製作を作製し、人工歯排列を実施する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)		担当教員	
1-2	ユニット1. ノンクラスプデンチャー作業模型（下顎部分無歯顎模型）	・印象体への石膏注入を実施する ・トリマーを使用して作業模型のトリミングを実施する		野崎 修三	
3-4	ユニット1. ノンクラスプデンチャー咬合床（下顎部分無歯顎模型）	・模型のブロックアウトを実施する ・基礎床製作する			
5-6	ユニット1. ノンクラスプデンチャー咬合器付着（下顎部分無歯顎模型）	・咬合器付着を実施する			
7-8	ユニット1. ノンクラスプデンチャー作製（下顎部分無歯顎模型）	・模型のブロックアウトを実施する ・ワックスアップを実施する			
9-10	ユニット1. ノンクラスプデンチャー作製（下顎部分無歯顎模型）	・ワックスアップを実施する			
11-12	ユニット1. ノンクラスプデンチャー作製（下顎部分無歯顎模型）	・射出成型レジンの注入を実施する			
13-14	ユニット1. ノンクラスプデンチャー作製（下顎部分無歯顎模型）	・研磨を実施する			
15-16	ユニット2. 即時義歯（上顎両側遊離端部分無歯顎模型）	・印象体への石膏注入を実施する ・トリマーを使用して作業模型のトリミングを実施する			
17-18	ユニット2. 即時義歯（上顎両側遊離端部分無歯顎模型）	・模型のブロックアウトを実施する ・基礎床製作する			
19-20	ユニット2. 即時義歯（上顎両側遊離端部分無歯顎模型）	・咬合器付着を実施する			
21-22	ユニット2. 即時義歯（上顎両側遊離端部分無歯顎模型）	・模型の切断を実施する ・維持装置作製（コンビネーションクラスプ）を実施する			
23-24	ユニット2. 即時義歯（上顎両側遊離端部分無歯顎模型）	・ワックスアップを実施する			
25-26	ユニット2. 即時義歯（上顎両側遊離端部分無歯顎模型）	・重合を実施する（流し込みレジン） ・研磨（荒、中、仕上げ）を実施する			
27-28	ユニット8. 作業模型製作とバーと維持装置（実習試験用）	・実習試験用模型（1 組）を使用して、バーと維持装置の作製を実施する（トライアル）			
29-30	ユニット8. 作業模型製作とバーと維持装置（実習試験用）	・実習試験用模型（1 組）を使用して、バーと維持装置の作製を実施する（トライアル）			

成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。
履修上の注意事項 特になし
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 有床義歯技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 全部金属冠製作実習書、その他適宜印刷物の配布
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。

科 目 名	歯冠修復技工学Ⅰ	担当教員	佐藤 博信	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	前期	単位数	3		
曜日・時限	火 1, 2 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
全部被覆冠、一部被覆冠、ブリッジ補綴装置の製作法を通じて、歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を理解する。さらに、適切な歯科材料の選択基準ならびに取扱い方法を理解する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1. 歯冠修復技工学の概要を説明する。 2. ク라운の概要と種類を説明する。 3. ブリッジの概要と種類を説明する。 4. ク라운・ブリッジの具備条件を説明する。 5. ク라운・ブリッジの製作法を説明する。 6. 歯冠修復物と部分被覆冠を説明する。 7. 全部被覆冠を説明する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット1. 歯冠修復技工学の概要	・歯冠修復技工学の意義と目的を説明する ・歯冠修復技工学の歴史を説明する		佐藤 博信	
3-4	ユニット1. 歯冠修復技工学の概要	・顎口腔系の機能回復を説明する ・顎口腔系の審美改善を説明する ・口腔衛生と歯冠修復を説明する			
5-6	ユニット2. ク라운の概要と種類	・歯冠修復物と部分被覆冠の種類を説明する ・全部被覆冠の種類を説明する ・歯冠継続歯を説明する			
7-8	ユニット3. ブリッジの概要と種類	・ブリッジの特徴を説明する ・ブリッジの構成要を説明する ・ブリッジの種類を説明する			
9-10	ユニット4. ク라운・ブリッジの具備条件	・生物学的要件を説明する ・構造的力学的要件を説明する ・化学的要件を説明する ・審美的要件を説明する			
11-12	ユニット5. ク라운・ブリッジの製作法	・印象採得を説明する ・研究用模型を説明する ・個人トレーを説明する			
13-14	ユニット5. ク라운・ブリッジの製作法	・支台築を説明する ・プロビジョナルレストレーションを説明する ・色調選択を説明する			
15-16	ユニット5. ク라운・ブリッジの製作法	・作業用模型を説明する ・咬合器装着を説明する ・クラウン・ブリッジの咬合を説明する			
17-18	ユニット5. ク라운・ブリッジの製作法	・ワックスアップを説明する ・埋没を説明する ・鋳造を説明する			
19-20	ユニット5. ク라운・ブリッジの製作法	・連結法を説明する ・調整、研磨を説明する ・試適、合着を説明する			
21-22	ユニット5. ク라운・ブリッジの製作法	・レジン前装を説明する ・陶材の築盛・焼成を説明する ・クラウン不具合の原因を説明する			

23-24	ユニット6．歯冠修復物と部分被覆冠	・インレー・アンレーを説明する ・3/4冠、4/5冠、7/8冠を説明する ・プロキシマルハーフクラウンを説明する	
25-26	ユニット6．歯冠修復物と部分被覆冠	・ピンレッジを説明する ・ラミネートベニアを説明する	
27-28	ユニット7．全部被覆冠	・全部金属冠を説明する ・前装冠を説明する	
29-30	ユニット7．全部被覆冠	・ジャケットクラウンを説明する	
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として100点を満点とし、優（80点以上）・良（70点以上80点未満）・可（60点以上70点未満）・不可（60点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の2/3以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。			
履修上の注意事項 特になし			
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 その他適宜印刷物の配布			
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。			

科 目 名	歯冠修復技工学Ⅱ	担当教員	佐藤 博信	実務経験	○		
対象学年	1	分 野	専 門				
開講義時期	後期	単位数	3				
曜日・時限	火 1,2 限	単位区分	必 修				
授業形態	講義	講義場所	第一普通教室				
授業の一般目標（GIO）							
全部被覆冠、一部被覆冠、ブリッジ補綴装置の製作法を通じて、歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を理解する。さらに、適切な歯科材料の選択基準ならびに取扱い方法を理解する。							
授業の到達目標（SB0s）							
1. ブリッジを説明する。 2. インプラントを説明する。 3. CAD/CAM システムを説明する。							
授業計画							
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員			
1-2	ユニット1. ブリッジ	・支台装置の種類を説明する ・支台装置の適応用途を説明する		佐藤 博信			
3-4	ユニット1. ブリッジ	・ボンティックを説明する ・連結法を説明する					
5-6	ユニット1. ブリッジ	・臼歯部ブリッジの製作法を説明する ・前歯部ブリッジの製作法を説明する					
7-8	ユニット1. ブリッジ	・接着ブリッジの意義、特徴、適応用途を説明する ・接着ブリッジの支台歯携帯を説明する ・接着ブリッジの製作と接着面処理法を説明する					
9-10	ユニット2. インプラント	・インプラントの概要（歴史）を説明する ・インプラントの構を説明する ・インプラントの生体反応を説明する					
11-12	ユニット2. インプラント	・ンプラント治療の流れと歯科技工を説明する ・インプラントの種類を説明する ・インプラントの印象採得を説明する ・インプラントの咬合を説明する ・インプラントの上部構造製作を説明する					
13-14	ユニット3. CAD/CAM システム	・CAD/CAM システムの構成を説明する ・CAD/CAM システムの利点と欠点を説明する					
15-16	ユニット3. CAD/CAM システム	・CAD/CAM システムの材料を説明する ・CAD/CAM システムの加工装置を説明する					
成績評価の方法							
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。							
履修上の注意事項							
特になし							
教科書・参考書							
最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集							
その他適宜印刷物の配布							
授業外学習（予習・復習）の指示							
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。							

科 目 名	歯冠修復技工学総合	担当教員	佐藤 博信	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	1		
曜日・時限	火 3,4 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義・演習	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
全部被覆冠、一部被覆冠、ブリッジ補綴装置の製作法を通じて、歯質欠損ならびに歯牙欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を理解する。さらに、適切な歯科材料の選択基準ならびに取扱い方法を理解する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1. 歯冠修復・ブリッジの基本を述べる 2. 歯冠修復・ブリッジの応用を述べる 3. 歯冠修復・ブリッジの臨床（歯科技工の実践）を述べる					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット1. 歯冠修復・ブリッジの基本	・歯冠修復・ブリッジの概要・具備条件の基本を述べる ・歯冠修復・ブリッジの製作法1（全部金属冠等）の基本を述べる		佐藤 博信	
3-4	ユニット1. 歯冠修復・ブリッジの基本	・歯冠修復・ブリッジの製作法2（前装冠等）の基本を述べる ・インプラント・CAD/CAM システムの基本を述べる			
5-6	ユニット2. 歯冠修復・ブリッジの応用	・歯冠修復・ブリッジの概要・具備条件の応用を述べる ・歯冠修復・ブリッジの製作法1（全部金属冠等）の応用を述べる			
7-8	ユニット2. 歯冠修復・ブリッジの応用	・歯冠修復・ブリッジの製作法2（前装冠等）の応用を述べる ・歯冠修復・ブリッジの製作法3（ブリッジ等）の応用を述べる			
9-10	ユニット2. 歯冠修復・ブリッジの応用	・インプラントの製作法の応用を述べる ・CAD/CAM システムの応用を述べる			
11-12	ユニット3. 歯冠修復・ブリッジの臨床（歯科技工の実践）	・歯冠修復・ブリッジの概要・具備条件の臨床実践を述べる ・歯冠修復・ブリッジの製作法1（全部金属冠等）の臨床実践を述べる			
13-14	ユニット3. 歯冠修復・ブリッジの臨床（歯科技工の実践）	・歯冠修復・ブリッジの製作法2（前装冠等）の臨床実践を述べる ・歯冠修復・ブリッジの製作法3（ブリッジ等）の臨床実践を述べる			
15-16	ユニット3. 歯冠修復・ブリッジの臨床（歯科技工の実践）	・インプラントの製作法の臨床実践を述べる ・CAD/CAM システムの臨床実践を述べる			
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として100点を満点とし、優（80点以上）・良（70点以上80点未満）・可（60点以上70点未満）・不可（60点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の2/3以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項 特になし					
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 その他適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	歯冠修復技工学実習Ⅰ	担当教員	山口 文明	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	前期	単位数	3		
曜日・時限	水 3,4 限	単位区分	必 修		
授業形態	実習	講義場所	第1実習室		
授業の一般目標 (GIO)					
全部鑄造冠、インレーの製作法を通じて、歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を実施する。さらに、適切な歯科材料の選択基準ならびに取扱い方法を実施する。					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. 全部金属冠の製作を実施する。(ニッシン模型を使用) 2. 全部金属冠の製作を実施する。(臨床で使用した模型を使用) 3. インレーの製作を実施する。(ニッシン模型を使用) 4. インレーの製作を実施する。(臨床で使用した模型を使用)					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)		担当教員	
1-2	ユニット1. 作業模型 (右上6番の全部金属冠)	・印象体への石膏注入を実施する ・トリマーを使用して作業模型のトリミングを実施する		山口 文明	
3-4	ユニット1. 作業模型 (右上6番の全部金属冠)	・歯型可撤式模型を作製できる ・歯型のトリミングを実施する			
5-6	ユニット2. 作業模型の咬合器付着 (右上6番の全部金属冠)	・咬合器付着を実施する			
7-8	ユニット3. ワックスアップ (右上6番の全部金属冠)	・盛り上げ法によるワックスアップを実施する			
9-10	ユニット4. 埋没・鑄造 (右上6番の全部金属冠)	・ワックスパターンを埋没する ・全部金属冠を埋没する			
11-12	ユニット5. 研磨・仕上げ (右上6番の全部金属冠)	・全部金属冠の適合を実施する ・全部金属冠の研磨をする			
13-14	ユニット6. 作業模型 (全部金属冠用臨床模型)	・印象体への石膏注入を実施する ・トリマーを使用して作業模型のトリミングを実施する ・歯型可撤式模型を作製できる ・歯型のトリミングを実施する			
15-16	ユニット7. 作業模型の咬合器付着とワックスアップ (全部金属冠用臨床模型)	・咬合器付着を実施する・盛り上げ法によるワックスアップを実施する			
17-18	ユニット8. 埋没・鑄造及び適合・研磨 (全部金属冠用臨床模型)	・ワックスパターンを埋没する ・全部金属冠を鑄造する ・全部金属冠の適合を実施する ・全部金属冠の研磨をする			
19-20	ユニット9. 作業模型 (左下6番のⅡ級インレー)	・印象体への石膏注入を実施する ・トリマーを使用して作業模型のトリミングを実施する ・歯型可撤式模型を作製できる ・歯型のトリミングを実施する			
21-22	ユニット10. 咬合器付着とワックスアップ (左下6番のⅡ級インレー)	・咬合器付着を実施する ・軟化圧接法によるワックスアップを実施する			
23-24	ユニット11. 埋没・鑄造及び適合・研磨 (左下6番のⅡ級インレー)	・ワックスパターンを埋没する ・Ⅱ級インレーを鑄造する ・Ⅱ級インレーの適合を実施する ・Ⅱ級インレーの研磨をする			
25-26	ユニット12. 作業模型製作、ワックスアップ (Ⅱ級インレーの臨床模型)	・歯型可撤式模型を製作する ・歯型のトリミングを実施する ・咬合器付着を実施する ・ワックスアップを実施する			

27-28	ユニット 1 3. 埋没・鋳造及び適合・研磨（Ⅱ級インレーの臨床模型）	・ワックスパターンを埋没する ・Ⅱ級インレーを鋳造する ・Ⅱ級インレーの適合を実施する ・Ⅱ級インレーの研磨をする	
29-30	ユニット 1 4. 実習試験用模型製作	・実習試験用歯型可撤式模型を製作する	
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。			
履修上の注意事項 特になし			
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 全部金属冠製作実習書、その他適宜印刷物の配布			
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。			

科 目 名	歯冠修復技工学実習Ⅱ	担当教員	山口 文明	実務経験	○		
対象学年	1	分 野	専 門				
開講義時期	後期	単位数	3				
曜日・時限	火 3,4 限	単位区分	必 修				
授業形態	実習	講義場所	第一実習室				
授業の一般目標 (GIO)							
ブリッジ修復の製作法を通じて、歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を実施する。さらに、適切な歯科材料の選択基準ならびに取扱い方法を実施する。							
授業の到達目標 (SB0s)							
1. レジン前装冠の製作を実施する。(ニッシン模型を使用) 2. 臼歯部ブリッジ製作を実施する。(ニッシン模型を使用)。 3. 実習試験用模型を製作する							
授業計画							
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)		担当教員			
1-2	ユニット1. 作業模型の作製と咬合器付着 (左上1番レジン前装冠)	・印象体への石膏注入を実施する ・歯型可撤式模型を製作できる		山口 文明			
3-4	ユニット1. 作業模型の作製と咬合器付着 (左上1番レジン前装冠)	・歯型のトリミングを実施する ・咬合器付着を実施する					
5-6	ユニット2. ワックスアップとシリコンコア (左上1番レジン前装冠)	・盛り上げ法によるワックスアップを実施する1					
7-8	ユニット2. ワックスアップとシリコンコア (左上1番レジン前装冠)	・盛り上げ法によるワックスアップを実施する2 ・シリコンインデックスを製作する					
9-10	ユニット3. 開窓、埋没、鋳造 (左上1番レジン前装冠)	・ポンティック部の開窓を実施する ・ワックスパターンの埋没を実施する ・メタル部を鋳造する					
11-12	ユニット4. 金属研磨とレジン築盛 (左上1番レジン前装冠)	・メタル部の研磨を実施する ・レジンの築盛を実施する					
13-14	ユニット5. 形態修正と最終研磨 (左上1番レジン前装冠)	・レジンの形態修正を実施する1					
15-16	ユニット5. 形態修正と最終研磨 (左上1番レジン前装冠)	・レジンの形態修正を実施する2 ・前装冠の最終研磨を実施する					
17-18	ユニット6. 作業模型の作製と咬合器付着 (左下6番欠損のブリッジ)	・印象体への石膏注入を実施する ・歯型可撤式模型を製作できる ・歯型のトリミングを実施する ・咬合器付着を実施する					
19-20	ユニット7. ワックスアップ (左下6番欠損のブリッジ)	・盛り上げ法によるワックスアップを実施する1					
21-22	ユニット8. ワックスアップ・埋没 (左下6番欠損のブリッジ)	・盛り上げ法によるワックスアップを実施する2 ・ポンティック部の開窓を実施する ・ワックスパターンを埋没する					
23-24	ユニット9. 鋳造・研磨 (左下6番欠損のブリッジ)	・ブリッジを鋳造する ・ブリッジを研磨する (金属部)					
25-26	ユニット10. レジン築盛・研磨 (左下6番欠損のブリッジ)	・ポンティック部のレジン築盛をする					
27-28	ユニット11. レジン築盛・研磨 (左下6番欠損のブリッジ)	・ポンティック部のレジン研磨を実施する					
29-30	ユニット12. 実習試験用模型製作	・実習試験用歯型可撤式模型を製作する					
成績評価の方法							
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として100点を満点とし、優 (80点以上)・良 (70点以上80点未満)・可 (60点以上70点未満)・不可 (60点未満、再試験を実施することがある。) による段階的評価により行う。60点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の2/3以上を出席し							

ているものにのみ受験資格を与える。
履修上の注意事項 特になし
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 全部金属冠製作実習書、その他適宜印刷物の配布
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。

科 目 名	歯冠修復技工学実習Ⅲ	担当教員	山口 文明 齋田 晃子 入部 智恵	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	前期	単位数	3		
曜日・時限	水曜 1, 2 限	単位区分	必 修		
授業形態	実習	講義場所	第一実習室、C A D実習室		
授業の一般目標 (GIO)					
歯冠修復ならびにブリッジ修復の製作法を通じて、歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を実施する。さらに、適切な歯科材料の選択基準ならびに取扱い方法を実施する。					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. 支台築造プロビジョナル歯冠修復装置製作を実施する。(ニッシン模型を使用) 2. 個人トレー製作する。(クラウンブリッジ用、ニッシン模型を使用) 3. 硬質レジンジャケット冠を製作する。(ニッシン模型を使用)。 4. CAD/CAM 冠を作製する。(ニッシン模型を使用)。 5. 実習試験用模型製作する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)		担当教員	
1-2	ユニット1. 支台築造 (メタル、ファイバー) とプロビジョナルレストレーション	・作業模型製作を実施する ・咬合器付着を実施する (右下6番ニッシン模型)		山口 文明 入部 智恵	
3-4	ユニット1. 支台築造 (メタル、ファイバー) とプロビジョナルレストレーション	・コアワックスアップを実施する ・ファイバーコアを製作する (右下6番ニッシン模型)			
5-6	ユニット1. 支台築造 (メタル、ファイバー) とプロビジョナルレストレーション	・歯冠ワックスアップを実施する ・シリコンコアを採得する (右下6番ニッシン模型)			
7-8	ユニット1. 支台築造 (メタル、ファイバー) とプロビジョナルレストレーション	・レジン築盛 (流し込み) を実施する ・プロビジョナルを研磨する (右下6番ニッシン模型)			
9-10	ユニット2. 個人トレー (ニッシン模型 CB 用)	・作業模型製作を実施する ・スペーサーの設置を実施する (右下6番ニッシン模型)			
11-12	ユニット2. 個人トレー (ニッシン模型 CB 用)	・トレーを製作する ・トレーを研磨する (右下6番ニッシン模型)			
13-14	ユニット3. 硬質レジンジャケット冠 (ニッシン模型)	・作業模型製作を実施する ・咬合器付着を実施する (*上1番ニッシン模型)			
15-16	ユニット3. 硬質レジンジャケット冠 (ニッシン模型)	・作業模型製作を実施する ・咬合器付着を実施する (*上1番ニッシン模型)			
17-18	ユニット3. 硬質レジンジャケット冠 (ニッシン模型)	・作業模型製作を実施する ・咬合器付着を実施する (*上1番ニッシン模型)			
19-20	ユニット3. 硬質レジンジャケット冠 (ニッシン模型)	・作業模型製作を実施する ・咬合器付着を実施する (*上1番ニッシン模型)			
21-22	ユニットユニット4. CAD/CAM 冠の製作 (ニッシン模型)	・作業用模型を製作する ・模型スキャナーでのスキャンを実施する (ニッシン模型上顎第1小臼歯)		山口 文明 齋田 晃子	
23-24	ユニットユニット4. CAD/CAM 冠の製作 (ニッシン模型)	・作業用模型を製作する ・模型スキャナーでのスキャンを実施する (ニッシン模型上顎第1小臼歯)			
25-26	ユニットユニット4. CAD/CAM 冠の製作 (ニッシン模型)	・CAD/CAM 冠のデザインを実施する (ニッシン模型上顎第1小臼歯)			
27-28	ユニットユニット4. CAD/CAM 冠	・CAD/CAM 冠の CAM 加工を実施する			

	の製作（ニッシン模型）	・CAD/CAM 冠の研磨を実施する （ニッシン模型上顎第 1 小臼歯）	
29-30	ユニット 5．実習試験用模型製作	・実習試験用歯型可撤式模型を製作する	山口 文明
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。			
履修上の注意事項 特になし			
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 全部金属冠製作実習書、その他適宜印刷物の配布			
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。			

科 目 名	歯冠修復技工学実習Ⅳ	担当教員	山口 文明 齋田 晃子 入部 智恵	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	3		
曜日・時限	水曜 3, 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	実習	講義場所	第 2 実習室、C A D 実習室		
授業の一般目標 (GIO)					
歯冠修復ならびにブリッジ修復の製作法を通じて、歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を実施する。 さらに、適切な歯科材料の選択基準ならびに取扱い方法を実施する。					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. 陶材焼付金属冠を製作する。(ニッシン模型を使用) 2. ジルコニアクラウンを製作する。(ニッシン模型を使用) 3. 前歯部ブリッジを製作する。(ニッシン模型を使用)。 4. 実習試験用模型製作する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)		担当教員	
1-2	ユニット 1. 陶材焼付金属冠 (ニッシン模型を使用)	・作業模型製作を実施する ・咬合器付着を実施する (右上 1 番ニッシン模型)		山口 文明 齋田 晃子 入部 智恵	
3-4	ユニット 1. 陶材焼付金属冠 (ニッシン模型を使用)	・ワックスアップを実施する ・窓開けを実施する (右上 1 番ニッシン模型)			
5-6	ユニット 1. 陶材焼付金属冠 (ニッシン模型を使用)	・鋳造・研磨を実施する (右上 1 番ニッシン模型)			
7-8	ユニット 1. 陶材焼付金属冠 (ニッシン模型を使用)	・陶材築盛を実施する ・陶材研磨を実施する (右上 1 番ニッシン模型)			
9-10	ユニット 2. ジルコニアクラウン (ニッシン模型 CB 用)	・作業模型製作を実施する ・咬合器付着を実施する (右上 4 番ニッシン模型)			
11-12	ユニット 2. ジルコニアクラウン (ニッシン模型 CB 用)	・模型のスキャンを実施する ・CAD デザインを実施する (右上 4 番ニッシン模型)			
13-14	ユニット 2. ジルコニアクラウン (ニッシン模型 CB 用)	・CAM を実施する (右上 4 番ニッシン模型)			
15-16	ユニット 2. ジルコニアクラウン (ニッシン模型 CB 用)	・シンタリング・研磨を実施する (右上 4 番ニッシン模型)			
17-18	ユニット 2. ジルコニアクラウン (ニッシン模型 CB 用)	・シンタリング・研磨を実施する (右上 4 番ニッシン模型)			
19-20	ユニット 3. 前歯部ブリッジ (ニッシン模型)	・作業模型製作を実施する ・咬合器付着を実施する (*右上 2 番欠損ニッシン模型)			
21-22	ユニット 3. 前歯部ブリッジ (ニッシン模型)	・ワックスアップを実施する ・窓開け実施する (*右上 2 番欠損ニッシン模型)			
23-24	ユニット 3. 前歯部ブリッジ (ニッシン模型)	・埋没・鋳造を製作する ・フレーム研磨を実施する ((*右上 2 番欠損ニッシン模型)			
25-26	ユニット 3. 前歯部ブリッジ (ニッシン模型)	・前装を実施する (*右上 2 番欠損ニッシン模型)			
27-28	ユニット 3. 前歯部ブリッジ (ニッシン模型)	・ブリッジ研磨をする (*右上 2 番欠損ニッシン模型)			
29-30	ユニット 5. 実習試験用模型製作	・実習試験用歯型可撤式模型を製作する			

成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。
履修上の注意事項 特になし
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 全部金属冠製作実習書、その他適宜印刷物の配布
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。

科 目 名	矯正歯科技工学	担当教員	藤原 弘明	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	1		
曜日・時限	木 2,3 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標 (GIO)					
矯正歯科治療の意義、矯正歯科治療の流れ、矯正歯科技工の概要および各矯正装置の特徴・製作方法を述べる。					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. 矯正歯科（意義と目的）を述べる 2. 正常咬合と不正咬合（咬合異常）を述べる 3. 矯正歯科治療の進め方を述べる 4. 矯正歯科技工用器具と器械、材料 5. 矯正歯科技工の手技 6. 矯正用口腔模型の製作 7. 矯正装置の必要条件と分類 8. 矯正装置の製作法（動的矯正装置） 9. 保定装置（静的矯正装置）					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット1. 矯正歯科（意義と目的） ユニット2. 正常咬合と不正咬合（咬合異常）	・矯正歯科治療における矯正歯科技工の目的と意義を述べる ・正常咬合の条件と種類を述べる ・不正咬合を述べる		藤原 弘明	
3-4	ユニット3. 矯正歯科治療の進め方	・矯正歯科治療における症例分析法を述べる			
5-6	ユニット4. 矯正歯科技工用器具と器械、材料 ユニット5. 矯正歯科技工の手技	・矯正歯科技工によく用いられる器械・器具名と材料の種類を述べる ・矯正歯科技工によく用いられる器械・器具名と材料の用途を述べる。 ・線屈曲を述べる ・自在鑑付けを述べる ・矯正用レジンで矯正装置の床部の形成を述べる			
7-8	ユニット6. 矯正用口腔模型の製作 ユニット7. 矯正装置の必要条件と分類	・矯正用口腔模型の種類と特徴を述べる ・平行模型の製作法を述べる ・セットアップモデルの用途と製作を述べる ・矯正装置の必要条件を述べる ・矯正装置の分類を述べる			
9-10 11-12	ユニット8. 矯正装置の製作法（動的矯正装置）	・舌側弧線装置の目的、構成および製作法を述べる ・舌側弧線装置を述べる。 ・ナンスのホールディングアーチの目的と構成を述べる ・顎間固定装置の目的と構成を述べる ・アクチバートルの目的と構成を述べる ・バイオネーターの目的と構成を述べる ・咬合挙上板の目的、構成および製作法を述べる ・咬合斜面板の目的と構成を述べる ・可撤式拡大装置の目的と構成を述べる ・固定式拡大装置の目的と種類を述べる ・固定式急速拡大装置の構成を述べる ・ヘッドギアの目的と構成を述べる ・オートガイ帽装置の目的と構成を述べる ・上顎前方牽引装置の目的と構成を述べる			

		・リップバンパーの目的と構成を述べる ・マルチブラケット装置の目的とダイレクトボンディング法・インダイレクトボンディング法を述べる ・フレンケルの装置の目的と特徴を述べる	
13-14 15-16	ユニット9. 保定装置 (静的矯正装置)	・ホーレーの保定装置の目的, 構成および製作法を述べる ・ホーレーの保定装置を述べる ・ラップアラウンドリテーナーの目的と構成を述べる ・トゥースポジショナーの目的と構成を述べる ・スプリング、リテーナーの目的, 構成および製作法を述べる ・下顎犬歯間リテーナーの目的と構成を述べる	
成績評価の方法 定期考査、受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として100点を満点とし、優(80点以上)・良(70点以上80点未満)・可(60点以上70点未満)・不可(60点未満、再試験を実施することがある。)による段階的評価により行う。60点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の2/3以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。			
履修上の注意事項 特になし			
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学(第二版) / 全国歯科技工士教育協議会 編集 その他適宜印刷物の配布			
授業外学習(予習・復習)の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。			

科 目 名	歯科矯正技工学実習	担当教員	山口 文明	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	1		
曜日・時限	水 3, 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	実習	講義場所	第 1 実習室		
授業の一般目標 (GIO)					
矯正歯科治療の意義、矯正歯科治療の流れ、矯正歯科技工の概要および各矯正装置の特徴・製作方法を実施する					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. 矯正歯科技工における基本的手技を実施する。 2. 器械的矯正装置を製作する。(ニッシン模型を使用)。 3. 保定装置を製作する (ニッシン模型を使用)。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)		担当教員	
1-2	ユニット 1. 矯正歯科技工における基本的手技	・ 矯正用ワイヤーの屈曲を実施する ・ 自在鑑着を実施する		山口 文明	
3-4	ユニット 2. 器械的矯正装置	・ 舌側弧線装置を製作する			
5-6	ユニット 2. 器械的矯正装置	・ 舌側弧線装置を製作する			
7-8	ユニット 2. 器械的矯正装置	・ 舌側弧線装置を製作する			
9-10	ユニット 2. 器械的矯正装置	・ 舌側弧線装置を製作する			
11-12	ユニット 3. 保定装置	・ ホーレーの保定装置を製作する			
13-14	ユニット 3. 保定装置	・ ホーレーの保定装置を製作する			
15-16	ユニット 3. 保定装置	・ ホーレーの保定装置を製作する			
成績評価の方法					
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優 (80 点以上)・良 (70 点以上 80 点未満)・可 (60 点以上 70 点未満)・不可 (60 点未満、再試験を実施することがある。) による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					
教科書・参考書					
最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集					
全部金属冠製作実習書、その他適宜印刷物の配布					
授業外学習 (予習・復習) の指示					
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	矯正歯科技工学総合	担当教員	藤原 弘明	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	1		
曜日・時限	木 3、4 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義・演習	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
矯正歯科治療の意義、矯正歯科治療の流れ、矯正歯科技工の概要および各矯正装置の特徴・製作方法を理解する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1．矯正歯科の基本を説明する。 2．矯正歯科の応用を説明する。 3．矯正歯科の臨床（歯科技工の実践）を説明する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット1．矯正歯科の基本	・ 矯正歯科の基本を説明する		藤原 弘明	
3-4	ユニット2．矯正歯科の応用	・ 矯正歯科の応用を説明する			
5-6	ユニット3．矯正歯科の臨床（歯科技工の実践）	・ 矯正歯科の臨床を説明する			
7-8	ユニット3．矯正歯科の臨床（歯科技工の実践）	・ 矯正歯科の臨床を説明する			
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項 特になし					
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 矯正歯科学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 その他適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	小児歯科技工学	担当教員	佐伯 桂	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	1		
曜日・時限	木 3, 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標 (GIO)					
小児歯科治療の意義、小児歯科治療の流れ、小児歯科技工の概要および各小児歯科装置の特徴・製作方法を理解する。					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. 小児歯科技工概説を説明する 2. 歯・顎・顔面の成長発育を説明する 3. 小児の歯冠修復を説明する 4. 咬合誘導装置の種類を説明する 5. 保隙装置を説明する 6. スペースリゲーターを説明する 7. 口腔習癖除去装を説明する 8. 咬合誘導装置に用いる維持装置を説明する					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)		担当教員	
1-2	ユニット1. 小児歯科技工概説	・小児歯科技工概説を説明する		佐伯 桂	
3-4	ユニット2. 歯・顎・顔面の成長発育を説明する	・成長発育と年齢を説明する ・顎顔面の成長と発育を説明する ・歯と歯列の発育を説明する			
5-6	ユニット3. 小児の歯冠修復	・小児の歯冠修復の特徴を説明する ・小児の歯冠修復の種類を説明する			
7-8	ユニット4. 咬合誘導装置の種類	・咬合誘導の概念を説明する ・咬合誘導装置の種類を説明する			
9-10	ユニット5. 保隙装置	・保隙装置の必要条件と分類を説明する ・クラウンループ保隙装置を説明する ・バンドループ保隙装置を説明する			
11-12	ユニット5. 保隙装置	・ディスタルシュー保隙装置を説明する ・バンドループ保隙装置を説明する ・ナンスのホールディングアーチを説明する ・可撤保隙装置を説明する			
13-14	ユニット6. スペースリゲーター ユニット7. 口腔習癖除去装置	・スペースリゲーターを説明する ・口腔習癖除去装置を説明する			
15-16	ユニット8. 咬合誘導装置に用いる維持装置	・アダムスのクラスプを説明する ・シュワルツェのクラスプを説明する ・唇側線、単純クラスプ、ボールクラスプを説明する			
成績評価の方法					
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優 (80 点以上)・良 (70 点以上 80 点未満)・可 (60 点以上 70 点未満)・不可 (60 点未満、再試験を実施することがある。) による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					
教科書・参考書					
最新歯科技工士教本 小児歯科学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集					
その他適宜印刷物の配布					
授業外学習 (予習・復習) の指示					
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	小児歯科技工学実習	担当教員	山口 文明	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	1		
曜日・時限	金 3, 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	実習	講義場所	第 1 実習室		
授業の一般目標 (GIO)					
小児歯科治療の意義、小児歯科治療の流れ、小児歯科技工の概要および各小児歯科装置の特徴・製作方法を実施する					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. 可撤式保隙装置（小児義歯）を製作する。（ニッシン模型を使用）。 2. 固定性保隙装置を製作する（ニッシン模型を使用）。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット 1. 可撤式保隙装置	・可撤式保隙装置（小児義歯）を製作する。		山口 文明	
3-4	ユニット 1. 可撤式保隙装置	・可撤式保隙装置（小児義歯）を製作する。			
5-6	ユニット 1. 可撤式保隙装置	・可撤式保隙装置（小児義歯）を製作する。			
7-8	ユニット 1. 可撤式保隙装置	・可撤式保隙装置（小児義歯）を製作する。			
9-10	ユニット 1. 可撤式保隙装置	・可撤式保隙装置（小児義歯）を製作する。			
11-12	ユニット 2. 固定性保隙装置	・固定性保隙装置（クラウンループ）を製作する。			
13-14	ユニット 2. 固定性保隙装置	・固定性保隙装置（クラウンループ）を製作する。			
15-16	ユニット 2. 固定性保隙装置	・固定性保隙装置（クラウンループ）を製作する。			
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項 特になし					
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 小児歯科学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 全部金属冠製作実習書、その他適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	小児歯科技工学総合	担当教員	佐伯 桂	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	1		
曜日・時限	木 3、4 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義・演習	講義場所	第一普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
小児歯科治療の意義、小児歯科治療の流れ、小児歯科技工の概要および各小児歯科装置の特徴・製作方法を理解する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1．小児歯科の基本を説明する。 2．小児歯科の応用を説明する。 3．小児歯科の臨床（歯科技工の実践）を説明する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット1．小児歯科の基本	・小児歯科の基本歯科の基本を説明する		佐伯 桂	
3-4	ユニット2．小児歯科の応用	・小児歯科の基本歯科の応用を説明する			
5-6	ユニット3．小児歯科の臨床（歯科技工の実践）	・小児歯科の基本歯科の臨床を説明する			
7-8	ユニット3．小児歯科の基本歯科の臨床（歯科技工の実践）	・小児歯科の基本歯科の臨床を説明する			
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項 特になし					
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 小児歯科の基本歯科学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 その他適宜印刷物の配布					
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	歯科技工実習 I	担当教員	山口 文明	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	前期	単位数	3		
曜日・時限	火 3,4 限	単位区分	必 修		
授業形態	講義・実習	講義場所	第 1 実習室		
授業の一般目標 (GIO)					
医療分野における歯科医療の重要性、歯科医療における歯科技工の役割を理解し、専門基礎科目と専門科目における学習を的確に行うために、それらに必要な基礎的事項を修得する。					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験ならびに実施する (歯科材料) 2. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験ならびに実施する (PC) 3. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験ならびに実施する (臨床模型)					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)		担当教員	
1-2	ユニット 1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱い (インスツルメント)	・ 技工用インスツルメントでの作業を実施する		山口 文明	
3-4	ユニット 1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱い (石膏、ワックス)	・ 石膏作業を実施する ・ ワックス作業を実施する (キーホルダー作製)			
5-6	ユニット 1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱い (埋没、鋳造)	・ 埋没作業を実施する ・ 鋳造作業を実施する (キーホルダー作製)			
7-8	ユニット 1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱い (研磨)	・ 研磨作業を実施する (キーホルダー作製)			
9-10	ユニット 1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱い (研磨)	・ ワックスパターンを埋没する ・ 全部金属冠を鋳造する (キーホルダー作製)			
11-12	ユニット 2. 歯科技工の基本的材料・機器の扱い (PC)	・ PC の基本操作を実施する (ワード、エクセル、パワーポイント)			
13-14	ユニット 2. 歯科技工の基本的材料・機器の扱い (PC)	・ PC の基本操作を実施する (ワード、エクセル、パワーポイント)			
15-16	ユニット 2. 歯科技工の基本的材料・機器の扱い (CAD/CAM)	・ CAD システムを体験する (EXOCAD 体験)			
17-18	ユニット 3. 歯科技工の基本的材料・機器の扱い (臨床模型)	・ 模型製作 (下顎左右 6 番全部鋳造冠) を実施する			
19-20	ユニット 3. 歯科技工の基本的材料・機器の扱い (臨床模型)	・ 咬合器付着 (下顎左右 6 番全部鋳造冠) を実施する			
21-22	ユニット 3. 歯科技工の基本的材料・機器の扱い (臨床模型)	・ ワックスアップ (下顎左右 6 番全部鋳造冠) を実施する			
23-24	ユニット 3. 歯科技工の基本的材料・機器の扱い (臨床模型)	・ ワックスアップ (下顎左右 6 番全部鋳造冠) を実施する			
25-26	ユニット 3. 歯科技工の基本的材料・機器の扱い (臨床模型)	・ ワックスアップ (下顎左右 6 番全部鋳造冠) を実施する			
27-28	ユニット 3. 歯科技工の基本的材料・機器の扱い (臨床模型)	・ 鋳造・研磨 (下顎左右 6 番全部鋳造冠) を実施する			
29-30	ユニット 3. 歯科技工の基本的材料・機器の扱い (臨床模型)	・ 鋳造・研磨 (下顎左右 6 番全部鋳造冠) を実施する			
成績評価の方法					
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優 (80 点以上)・良 (70 点以上 80 点未満)・可 (60 点以上 70 点未満)・不可 (60 点未満、再試験を実施することがある。) による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					

教科書・参考書

最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集

その他適宜印刷物の配布

授業外学習（予習・復習）の指示

教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。

科 目 名	歯科技工実習Ⅱ	担当教員	佐藤 博信 山口 文明	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	3		
曜日・時限	火 3, 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	演習・実習	講義場所	第 1 実習室、第 1 普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
医療分野における歯科医療の重要性、歯科医療における歯科技工の役割を理解し、専門基礎科目と専門科目における学習を的確に行うために、それらに必要な基礎的事項を修得する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験ならびに実施する 2. 歯科医療と微生物を説明する。 3. 歯科技工士の感染対策を説明する。 4. 歯科技工士の対面行為を説明する。 5. 口腔衛生を実施する。 6. 歯科臨床見学を実施する。 7. シェイドテイクと口腔内撮影を実施する。 8. 歯科用デジタル機器と歯科技工用材料を説明する。 9. デジタルデータの安全管理を説明する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験 （文化祭課題作品）	・作業模型製作を実施する ・咬合器付着を実施する （文化祭課題作品）		山口 文明	
3-4	ユニット1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験 （文化祭課題作品）	・ワックスアップを実施する ・埋没を実施する （文化祭課題作品）			
5-6	ユニット1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験 （歯牙彫刻実習）	・歯科彫刻を実施し、解剖学的形態を確認する（大臼歯）			
7-8	ユニット1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験 （歯牙彫刻実習）	・歯科彫刻を実施し、解剖学的形態を確認する（大臼歯）			
9-10	ユニット1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験 （歯牙彫刻実習）	・歯科彫刻を実施し、解剖学的形態を確認する（前歯）			
11-12	ユニット1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験 （歯牙彫刻実習）	・歯科彫刻を実施し、解剖学的形態を確認する（前歯）			
13-14	ユニット1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験 （歯牙彫刻実習）	・歯科彫刻を実施し、解剖学的形態を確認する（小臼歯）			
15-16	ユニット2. 歯科医療と微生物	・病原性微生物の種類を説明する ・歯科疾患とバイオフィルムを説明する ・歯科疾患とウイルス感染症を説明する ・歯科疾患とカンジダ感染症を説明する		佐藤 博信	
17-18	ユニット3. 歯科技工士の感染対策	・スタンダードプリコーションを説明する ・滅菌と消毒を説明する ・技工室の環境整備を説明する			
19-20	ユニット4. 歯科技工士の対面行為	・医療従事者としての身だしなみを説明する ・歯科診療室の配置を説明する ・医療面接を説明する			
21-22	ユニット5. 口腔衛生の実施	・口腔衛生機器を説は説明する ・口腔清掃を実施する			
23-24	ユニット6. 歯科技工臨床見学	・歯科技工臨床見学を実施する ・シェイドテイクを模倣する			

25-26	ユニット7. シェイドテイクと口腔内撮影	・デンタルカラーを説明する ・シェイドテイクを実施する ・口腔内撮影を実施する	
27-28	ユニットユニット8. 歯科用デジタル機器と歯科技工用材料	・歯科用デジタル機器の種類を説明する ・デジタル機器と使用される歯科技工用材料を説明する ・デジタルデータを説明する ・画像データとグラフィックデータを説明する	
29-30	ユニット9. デジタルデータの安全管理	・コンピュータネットワークを説明する ・医療情報を説明する ・トレーサビリティを説明する	
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。			
履修上の注意事項 特になし			
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 その他適宜印刷物の配布			
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。			

科 目 名	歯科技工実習Ⅱ	担当教員	佐藤 博信 山口 文明	実務経験	○
対象学年	1	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	3		
曜日・時限	火 3, 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	演習・実習	講義場所	第 1 実習室、第 1 普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
医療分野における歯科医療の重要性、歯科医療における歯科技工の役割を理解し、専門基礎科目と専門科目における学習を的確に行うために、それらに必要な基礎的事項を修得する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験ならびに実施する 2. 歯科医療と微生物を説明する。 3. 歯科技工士の感染対策を説明する。 4. 歯科技工士の対面行為を説明する。 5. 口腔衛生を実施する。 6. 歯科臨床見学を実施する。 7. シェイドテイクと口腔内撮影を実施する。 8. 歯科用デジタル機器と歯科技工用材料を説明する。 9. デジタルデータの安全管理を説明する。					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験 （文化祭課題作品）	・作業模型製作を実施する ・咬合器付着を実施する （文化祭課題作品）		山口 文明	
3-4	ユニット1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験 （文化祭課題作品）	・ワックスアップを実施する ・埋没を実施する （文化祭課題作品）			
5-6	ユニット1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験 （歯牙彫刻実習）	・歯科彫刻を実施し、解剖学的形態を確認する（大臼歯）			
7-8	ユニット1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験 （歯牙彫刻実習）	・歯科彫刻を実施し、解剖学的形態を確認する（大臼歯）			
9-10	ユニット1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験 （歯牙彫刻実習）	・歯科彫刻を実施し、解剖学的形態を確認する（前歯）			
11-12	ユニット1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験 （歯牙彫刻実習）	・歯科彫刻を実施し、解剖学的形態を確認する（前歯）			
13-14	ユニット1. 歯科技工の基本的材料・機器の扱いを体験 （歯牙彫刻実習）	・歯科彫刻を実施し、解剖学的形態を確認する（小臼歯）			
15-16	ユニット2. 歯科医療と微生物	・病原性微生物の種類を説明する ・歯科疾患とバイオフィルムを説明する ・歯科疾患とウイルス感染症を説明する ・歯科疾患とカンジダ感染症を説明する		佐藤 博信	
17-18	ユニット3. 歯科技工士の感染対策	・スタンダードプリコーションを説明する ・滅菌と消毒を説明する ・技工室の環境整備を説明する			
19-20	ユニット4. 歯科技工士の対面行為	・医療従事者としての身だしなみを説明する ・歯科診療室の配置を説明する ・医療面接を説明する			
21-22	ユニット5. 口腔衛生の実施	・口腔衛生機器を説は説明する ・口腔清掃を実施する			
23-24	ユニット6. 歯科技工臨床見学	・歯科技工臨床見学を実施する ・シェイドテイクを模倣する			

25-26	ユニット7. シェイドテイクと口腔内撮影	・デンタルカラーを説明する ・シェイドテイクを実施する ・口腔内撮影を実施する	
27-28	ユニットユニット8. 歯科用デジタル機器と歯科技工用材料	・歯科用デジタル機器の種類を説明する ・デジタル機器と使用される歯科技工用材料を説明する ・デジタルデータを説明する ・画像データとグラフィックデータを説明する	
29-30	ユニット9. デジタルデータの安全管理	・コンピュータネットワークを説明する ・医療情報を説明する ・トレーサビリティを説明する	
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70 点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。			
履修上の注意事項 特になし			
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 その他適宜印刷物の配布			
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。			

科 目 名	歯科技工実習ⅢB	担当教員	藤原 弘明	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	前期	単位数	3		
曜日・時限	木 3, 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	演習	講義場所	第 2 実習室、第 1 普通教室		
授業の一般目標 (GIO)					
歯・歯周組織の形態、口腔、頭頸部の形態、構造および機能を理解することを通じて、歯科技工の臨床的意義と方法を実施する。					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. 歯牙形態と歯周組織の形態、構造および機能の基本を述べる 2. 歯牙形態と歯周組織の形態、構造および機能の応用を述べる 3. 歯牙形態と歯周組織の形態、構造および機能と臨床との関連を述べる 4. 顎口腔の形態と機能の基本を述べる 5. 顎口腔の形態と機能の応用を述べる 6. 顎口腔の形態と機能と臨床との関連を述べる					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)		担当教員	
1-2	ユニット 1. 歯牙形態と歯周組織の基本	・ 歯牙形態と歯周組織の形態、構造の基本を述べる (永久歯) ・ 歯牙形態と歯周組織の機能の基本を述べる		藤原 弘明	
3-4	ユニット 1. 歯牙形態と歯周組織の基本	・ 歯牙形態と歯周組織の形態、構造の基本を述べる (乳歯) ・ 歯牙形態と歯周組織の機能の基本を述べる (乳歯) ・ 歯牙形態と歯周組織の機能の加齢現象の基本を述べる			
5-6	ユニット 2. 歯牙形態と歯周組織の応用	・ 歯牙形態と歯周組織の形態、構造の応用を述べる (永久歯) ・ 歯牙形態と歯周組織の機能の応用を述べる (永久歯)			
7-8	ユニット 2. 歯牙形態と歯周組織の応用	・ 歯牙形態と歯周組織の形態、構造の応用を述べる (乳歯) ・ 歯牙形態と歯周組織の機能の応用を述べる (乳歯)			
9-10	ユニット 2. 歯牙形態と歯周組織の応用	・ 歯牙形態と歯周組織の機能の加齢現象の応用を述べる			
11-12	ユニット 3. 歯牙形態と歯周組織の臨床との関連	・ 歯牙形態と歯周組織の形態、構造と臨床との関連を述べる (永久歯) ・ 歯牙形態と歯周組織の機能と臨床との関連を述べる (永久歯)			
13-14	ユニット 3. 歯牙形態と歯周組織の臨床との関連	・ 歯牙形態と歯周組織の形態、構造と臨床との関連を述べる (乳歯) ・ 歯牙形態と歯周組織の機能と臨床との関連を述べる (乳歯)			
15-16	ユニット 3. 歯牙形態と歯周組織の臨床との関連	・ 歯牙形態と歯周組織の機能の加齢現象と臨床との関連を述べる			
17-18	ユニット 4. 顎口腔の形態と機能の基本	・ 顎口腔の形態の基本を述べる (永久歯) ・ 顎口腔の機能の基本を述べる (永久歯)			
19-20	ユニット 4. 顎口腔の形態と機能の基本	・ 顎口腔の形態の基本を述べる (乳歯) ・ 顎口腔の機能の基本を述べる (乳歯)			
21-22	ユニット 4. 顎口腔の形態と機能の基本	・ 顎口腔の加齢現象の基本を述べる			
23-24	ユニット 5. 顎口腔の形態と機能の応用	・ 顎口腔の形態の応用を述べる (永久歯) ・ 顎口腔の機能の応用を述べる (永久歯)			
25-26	ユニット 5. 顎口腔の形態と機能の応用	・ 顎口腔の形態の応用を述べる (乳歯) ・ 顎口腔の機能の応用を述べる (乳歯)			

27-28	ユニット6．顎口腔の形態と機能と臨床との関連	・顎口腔の形態と臨床との関連を述べる（永久歯） ・顎口腔の機能と臨床との関連を述べる（永久歯）	
29-30	ユニット6．顎口腔の形態と機能と臨床との関連	・顎口腔の形態と臨床との関連を述べる（乳歯） ・顎口腔の機能と臨床との関連を述べる（乳歯）	
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として100点を満点とし、優（80点以上）・良（70点以上80点未満）・可（60点以上70点未満）・不可（60点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の2/3以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。			
履修上の注意事項 特になし			
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 その他適宜印刷物の配布			
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。			

科 目 名	歯科技工実習Ⅳ①	担当教員	藤原 弘明 佐藤 博信 西俣 稔子	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	3		
曜日・時限	金 3, 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	演習	講義場所	第 2 実習室、第 1 普通教室		
授業の一般目標（GIO）					
歯科医療に欠かせない歯科材料および機械・器具に関する適切な歯科材料の選択基準ならびに取扱い方法を通じて、歯科技工の臨床的意義と方法を実施する。					
授業の到達目標（SB0s）					
1. 歯科材料の種類の性質の基本を述べる 2. 新しい加工技術の基本を述べる 3. 歯科材料の種類の性質の応用を述べる 4. 新しい加工技術の応用を述べる 5. 歯科材料の種類の性質と臨床との関連を述べる 6. 新しい加工技術と臨床との関連を述べる					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標（SB0s）		担当教員	
1-2	ユニット 1. 歯科材料の種類の性質の基本	・ 歯科材料の性質の概要を述べる		藤原 弘明 西俣 稔子	
3-4	ユニット 1. 歯科材料の種類の性質の基本	・ 歯科材料の性質Ⅰ（印象・模型）の基本を述べる ・ 歯科材料の性質Ⅱ（ワックス・人工歯・レジン）の基本を述べる			
5-6	ユニット 1. 歯科材料の種類の性質の基本	・ 歯科材料の性質Ⅲ（セラミック・ジルコニア）の基本を述べる			
7-8	ユニット 1. 歯科材料の種類の性質の基本	・ 歯科材料の性質Ⅳ（金属・金属加工）の基本を述べる			
9-10	ユニット 2. 新しい加工技術の基本	・ 歯科材料の性質Ⅴ（CAD/CAM システム）の基本を述べる			
11-12	ユニット 3. 歯科材料の種類の性質の応用	・ 歯科材料の性質の概要と応用を述べる			
13-14	ユニット 3. 歯科材料の種類の性質の応用	・ 歯科材料の性質Ⅰ（印象・模型）と応用を述べる ・ 歯科材料の性質Ⅱ（ワックス・人工歯・レジン）と応用を述べる			
15-16	ユニット 3. 歯科材料の種類の性質の応用	・ 歯科材料の性質Ⅲ（セラミック・ジルコニア）と応用を述べる			
17-18	ユニット 3. 歯科材料の種類の性質の応用	・ 歯科材料の性質Ⅳ（金属・金属加工）と応用を述べる			
19-20	ユニット 4. 新しい加工技術の応用	・ 歯科材料の性質Ⅴ（CAD/CAM システム）と応用を述べる			
21-22	ユニット 5. 歯科材料の種類の性質と臨床との関連	・ 歯科材料の性質の概要と臨床との関連を述べる			
23-24	ユニット 5. 歯科材料の種類の性質と臨床との関連	・ 歯科材料の性質Ⅰ（印象・模型）と臨床との関連を述べる ・ 歯科材料の性質Ⅱ（ワックス・人工歯・レジン）と臨床との関連を述べる			
25-26	ユニット 5. 歯科材料の種類の性質と臨床との関連	歯科材料の性質Ⅲ（セラミック・ジルコニア）と臨床との関連を述べる			
27-28	ユニット 5. 歯科材料の種類の性質と臨床との関連	・ 歯科材料の性質Ⅳ（金属・金属加工）と臨床との関連を述べる		佐藤 博信 西俣稔子	
29-30	ユニット 6. 新しい加工技術と臨床との関連	・ 歯科材料の性質Ⅴ（CAD/CAM システム）と臨床との関連を述べる			
成績評価の方法					
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優（80 点以上）・良（70					

点以上 80 点未満）・可（60 点以上 70 点未満）・不可（60 点未満、再試験を実施することがある。）による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。
履修上の注意事項 特になし
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 歯科理工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 全部金属冠製作実習書、その他適宜印刷物の配布
授業外学習（予習・復習）の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。

科 目 名	歯科技工実習Ⅳ②	担当教員	藤原 弘明	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	3		
曜日・時限	木 3, 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	演習	講義場所	第 2 実習室、第 1 普通教室		
授業の一般目標 (GIO)					
小児歯科技工の概要および矯正歯科技工を通じて、歯科技工の臨床的意義と方法を実施する。					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. 小児歯科技工ならびに矯正歯科技工の概要の基本を述べる 2. 小児歯科技工の基本を述べる 3. 矯正歯科技工の基本を述べる 4. 小児歯科技工ならびに矯正歯科技工の概要の応用を述べる 5. 小児歯科技工の応用を述べる 6. 矯正歯科技工の応用を述べる 7. 小児歯科技工ならびに矯正歯科技工の概要と臨床との関連を述べる 8. 小児歯科技工と臨床との関連を述べる 9. 矯正歯科技工と臨床との関連を述べる					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)		担当教員	
1-2	ユニット 1. 小児歯科技工ならびに矯正歯科技工概要の基本	・小児歯科技工ならびに矯正歯科技工の概要を述べる		藤原 弘明	
3-4	ユニット 2. 小児歯科技工の基本	・咬合誘導と咬合誘導装置の基本を述べる			
5-6	ユニット 2. 小児歯科技工の基本	・保隙装置の基本を述べる			
7-8	ユニット 3. 矯正歯科技工の基本	・矯正用模型の基本を述べる			
9-10	ユニット 3. 矯正歯科技工の基本	・矯正用装置の基本を述べる			
11-12	ユニット 4. 小児歯科技工ならびに矯正歯科技工概要の応用	・小児歯科技工ならびに矯正歯科技工の概要の応用を述べる			
13-14	ユニット 5. 小児歯科技工の応用	・咬合誘導と咬合誘導装置の応用を述べる			
15-16	ユニット 5. 小児歯科技工の応用	・保隙装置の応用を述べる			
17-18	ユニット 6. 矯正歯科技工の応用	・矯正用模型の応用を述べる			
19-20	ユニット 6. 矯正歯科技工の応用	・矯正用装置の応用を述べる			
21-22	ユニット 7. 小児歯科技工ならびに矯正歯科技工の概要と臨床との関連	・小児歯科技工ならびに矯正歯科技工の概要と臨床との関連を述べる			
23-24	ユニット 8. 小児歯科技工と臨床との関連	・咬合誘導と咬合誘導装置と臨床との関連を述べる			
25-26	ユニット 8. 小児歯科技工と臨床との関連	保隙装置と臨床との関連を述べる			
27-28	ユニット 9. 矯正歯科技工と臨床との関連	・矯正用模型と臨床との関連を述べる			
29-30	矯正歯科技工と臨床との関連	・矯正用装置と臨床との関連を述べる			
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優 (80 点以上)・良 (70 点以上 80 点未満)・可 (60 点以上 70 点未満)・不可 (60 点未満、再試験を実施することがある。) による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項 特になし					

教科書・参考書

最新歯科技工士教本 小児歯科技工学、矯正歯科技工学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集
、その他適宜印刷物の配布

授業外学習（予習・復習）の指示

教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。

科 目 名	歯科技工実習Ⅳ③	担当教員	山口 文明	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	3		
曜日・時限	水 3, 4 限	単位区分	必 修		
授業形態	演習	講義場所	第 2 実習室、第 1 普通教室		
授業の一般目標 (GIO)					
歯冠修復ならびにブリッジ修復を実施するとともに、臨床との関連を述べる					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. 前装冠を含むブリッジの作製を実施し、臨床との関連を述べる 2. 多数歯に渡る歯冠修復の作製を実施し、臨床との関連を述べる 3. 実習試験用模型の製作を実施する					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)		担当教員	
1-2	ユニット 1. 前装冠を含むブリッジの作製の実施と臨床	・臼歯部ブリッジ作業模型製作を実施する ・臼歯部ブリッジ咬合器付着を実施する		山口 文明	
3-4	ユニット 1. 前装冠を含むブリッジの作製の実施と臨床	・臼歯部ブリッジ・ワックスアップを実施する			
5-6	ユニット 1. 前装冠を含むブリッジの作製の実施と臨床	・臼歯部ブリッジ・鋳造・研磨を実施する			
7-8	ユニット 1. 前装冠を含むブリッジの作製の実施と臨床	・臼歯部ブリッジ・ろう着を実施する ・臼歯部ブリッジ・前装を実施する			
9-10	ユニット 1. 前装冠を含むブリッジの作製の実施と臨床	・前歯部ブリッジ作業模型製作を実施する ・前歯部ブリッジ咬合器付着を実施する			
11-12	ユニット 1. 前装冠を含むブリッジの作製の実施と臨床	・前歯部ブリッジブリッジ・ワックスアップを実施する			
13-14	ユニット 1. 前装冠を含むブリッジの作製の実施と臨床	・前歯部ブリッジ・鋳造・研磨を実施する			
15-16	ユニット 1. 前装冠を含むブリッジの作製の実施と臨床	・前歯部ブリッジ・ろう着を実施する ・前歯部ブリッジ・前装を実施する			
17-18	ユニット 2. 多数歯に渡る歯冠修復の作製の実施と臨床	・大臼歯部各歯冠のワックスアップを実施する			
19-20	ユニット 2. 多数歯に渡る歯冠修復の作製の実施と臨床	・小臼歯部各歯冠のワックスアップを実施する			
21-22	ユニット 2. 多数歯に渡る歯冠修復の作製の実施と臨床	・前歯部各歯冠のワックスアップを実施する			
23-24	ユニット 2. 多数歯に渡る歯冠修復の作製の実施と臨床	・大臼歯部各歯冠のワックスアップを実施するⅡ			
25-26	ユニット 2. 多数歯に渡る歯冠修復の作製の実施と臨床	・小臼歯部各歯冠のワックスアップを実施するⅡ			
27-28	ユニット 2. 多数歯に渡る歯冠修復の作製の実施と臨床	・前歯部各歯冠のワックスアップを実施するⅡ			
29-30	ユニット 3. 実習試験用模型製作	・実習試験用歯型可撤式模型を製作する			
成績評価の方法					
受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優 (80 点以上)・良 (70 点以上 80 点未満)・可 (60 点以上 70 点未満)・不可 (60 点未満、再試験を実施することがある。) による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項					
特になし					
教科書・参考書					
最新歯科技工士教本 歯冠修復学/ 全国歯科技工士教育協議会 編集 全部金属冠製作実習書、その他適宜印刷物の配布					
授業外学習 (予習・復習) の指示					
教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。					

科 目 名	歯科技工実習Ⅳ④	担当教員	野崎 修三	実務経験	○
対象学年	2	分 野	専 門		
開講義時期	後期	単位数	3		
曜日・時限	金 3,4 限	単位区分	必 修		
授業形態	演習	講義場所	第 2 実習室、第 1 普通教室		
授業の一般目標 (GIO)					
有床義歯などの製作を実施するとともに、臨床との関連を述べる					
授業の到達目標 (SB0s)					
1. 全部床義歯の作製を実施し、臨床との関連を述べる 2. 部分床義歯の作製を実施し、臨床との関連を述べる 3. その他の床義歯の作製を実施し、臨床との関連を述べる					
授業計画					
回	授業項目	授業ごとの到達目標 (SB0s)		担当教員	
1-2	ユニット 1. 全部床義歯の作製の 実施と臨床	・全部床義歯の作業模型の製作を実施する ・全部床義歯の基礎床の作製を実施する		野崎 修三	
3-4	ユニット 1. 全部床義歯の作製の 実施と臨床	・全部床義歯のロウ堤の製作を実施する ・全部床義歯の咬合器付着を実施する			
5-6	ユニット 1. 全部床義歯の作製の 実施と臨床	・全部床義歯の排列・歯肉形成を実施する			
7-8	ユニット 1. 全部床義歯の作製の 実施と臨床	・全部床義歯の排列・歯肉形成を実施する			
9-10	ユニット 1. 全部床義歯の作製の 実施と臨床	・全部床義歯の排列・歯肉形成を実施する			
11-12	ユニット 1. 全部床義歯の作製の 実施と臨床	・全部床義歯の排列・歯肉形成を実施する			
13-14	ユニット 2. 部分床義歯の作製の 実施と臨床	・部分床義歯の作業模型の製作を実施する ・全部床義歯の基礎床の作製を実施する			
15-16	ユニット 2. 部分床義歯の作製の 実施と臨床	・部分床義歯のロウ堤の製作を実施する ・全部床義歯の咬合器付着を実施する			
17-18	ユニット 2. 部分床義歯の作製の 実施と臨床	・部分床義歯の副模型の作製を実施する			
19-20	ユニット 2. 部分床義歯の作製の 実施と臨床	・部分床義歯メタルフレームのワックスアップを実施する			
21-22	ユニット 2. 部分床義歯の作製の 実施と臨床	・部分床義歯メタルフレームのワックスアップを実施する			
23-24	ユニット 2. 部分床義歯の作製の 実施と臨床	・部分床義歯メタルフレームのワックスアップを実施する			
25-26	ユニット 3. その他の床義歯の 作製の実施と臨床	・小児義歯の作製を実施する			
27-28	ユニット 3. その他の床義歯の 作製の実施と臨床	・小児義歯の作製を実施する			
29-30	ユニット 3. その他の床義歯の 作製の実施と臨床	・矯正装置の作製を実施する			
成績評価の方法 受講態度、出席状況から総合的評価を行う。評価は、評価点として 100 点を満点とし、優 (80 点以上)・良 (70 点以上 80 点未満)・可 (60 点以上 70 点未満)・不可 (60 点未満、再試験を実施することがある。) による段階的評価により行う。60 点以上を合格基準として進級の要件としている。また、当該授業時間数の 2/3 以上を出席しているものにのみ受験資格を与える。					
履修上の注意事項 特になし					
教科書・参考書 最新歯科技工士教本 有床義歯技工学、小児歯科技工学、矯正歯科技工学 全国歯科技工士教育協議会 編集 全部金属冠製作実習書、その他適宜印刷物の配布					
授業外学習 (予習・復習) の指示 教科書で授業内容の予習・復習をしておくこと。s					